

法政大學講義録

松岡, 義正 / 上杉, 慎吉 / 矢部, 廉 / 富井, 政章 / 山田,
三良 / 遠藤, 忠次 / 掛下, 重次郎

(出版者 / Publisher)

法政大學

(巻 / Volume)

3-3

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

59

(発行年 / Year)

1903-11-08

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

(明治三十六年十一月十二日第三種郵便物認可)
(毎月九回) 日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行

三十七年度

明治三十六年十一月八日發行

第三學年ノ三

法政大學講義録

第九號



法政大學發行

第三學年 第三號目次

民法物權	自第七章(自一六)至第十章(自一九)	法學博士 富井政章
民法親族	(自一七二)至(自一七九)	法律學士 掛下重次郎
商法手形	(自一七三)至(自一七四)	法學士 矢部廉
行政法各論	(自一七四)至(自一七五)	法學士 上杉慎吉
國際私法	(自一七五)至(自一七六)	法學博士 山田三良
民事訴訟法	自第三編(自一七六)至第五編(自一八二)	法學士 遠藤忠次
破產	法(自一八三)至(自一八五)	法學士 松岡義正

雜報

○手形ノ呈示期間○理由ノ申立ナキ抗告○假處分ノ性質○町村制施行前ノ町村ノ人格○高等研究科授業開始

090
1904
3-1-3

滅失スルコトアルモ尙ホ其殘部分ハ債權ヲ擔保スルモノデアル、又質權者ニ於テ繼令一部ノ辨濟ヲ受クルモ猶ホ質物ノ全部ヲ占有スルコトヲ得ル、此原則ハ財產平分主義ノ相續法ノ行ハルル歐洲諸國ニ於テハ相續ノ場合ニ屢其適用ヲ見ル、殊ニ抵當權ニ付イテ見ルコトデアル、即チ數人ノ相續人ニ相續財產ガ分タルルト共ニ被相續人ノ債務モ分タレル、故ニ債權者ハ其各相續人ニ對シテ其一人ノ負擔部分ニ非ザレハ請求スルコトヲ得ズシテ數人ニ對シテ請求ヲ分ツト云フコトガ現ニ一ノ不便デアル、然ル上ニ尙ホ其中ニ無資力者ガ存スレバ全部ノ辨濟ヲ受クル能ハザル危險ガアル、抵當權ノ不可分ニ因テ其危險ヲ免ルルコトヲ得ル、即チ抵當不動産ヲ得タ者ハ自己ノ負擔部分以外ニ他ノ相續人ノ負擔部分ヲモ辨濟セチバナラスコトニ爲ル、即チ其相續ニ因テ得タ抵當不動産ヲ以テ債務ノ全額ニ達スルマデ之ヲ辨濟ニ當テチバナラス、我民法ニハ家督相續ヲ本則トスルニ由テ相續ノ場合ニハ其適用ヲ見ルコトハ少カラウト思フ唯家族ノ遺産相續ノ場合ニ其適用ガ生ジ得ルコトデアル

第七章 留置權

本章ハ之ヲ左ノ三節ニ分テ説明シマス

第一節 留置權ノ定義及性質

第二節 留置權ノ效力

第三節 留置權ノ消滅

第一節 留置權ノ定義及性質

留置權トハ他人ノ物ヲ占有スル者ガ其物ニ關シテ有スル債權ノ辨濟ヲ受クルマデ其物ヲ留置スル權利ヲ謂フ(第二九五條第一項)即チ占有者ハ其占有スル物ヲ返還スル義務ヲ負フ者デアルガ若シ己レ返還ノ義務ヲ履行スルニモ拘ハラズ相手方ヨリハ其債務ノ辨濟ヲ受ケザルトキハ甚ダ不公平ナル結果ト爲ルガ故ニ一時其物ノ返還ヲ拒デ相手方ヨリ其債務ノ辨濟ヲ受クルマデハ占有ヲ繼續スルコトヲ得セシムルモノデアル即チ其物ノ所有者ハ占有ヲ復セント欲セ

バ辨濟ヲ爲サザバナラスコトト爲ル故ニ留置權ハ辨濟ヲ促スモノ簡便ナル方
法デアル(第二九五條第一項)留置權ハ民法第五百三十三條ニ規定スル
所ノ雙務契約ニ於ケル履行ノ拒絶權ト大ニ相似タ所デアアル即チ同條ニ依レバ
雙務契約當事者ノ一方ハ相手方ガ其辨濟期ニ在ル債務ノ履行ヲ提供スルマデ
ハ自己ノ債務ノ履行ヲ拒ムコトヲ得トアル此規定ハ留置權ト同一ノ趣意ニ出
デタモノデアルコトハ疑ナイ立法者ハ畢竟雙務契約ノ場合ニ互ニ履行ヲ得ン
ト欲シタル當事者ノ意思ヲ滿タシテ實際ニ公平ナル結果ヲ得ンコトヲ期シタ
モノデアル留置權モ亦返還ノ義務ヲ履行スルコトノ拒絶權デハナイカ果シテ
然ラバ第五百三十三條ノ履行拒絶權ト重複スルモノデアアル如キ感ジガ起ラネ
バナラス現ニ舊民法其他佛蘭西法系ニ屬スル諸法典ニハ一般ノ雙務契約ノ效
力トシテ我民法第五百三十三條ニ規定スル如キ履行ノ拒絶權ヲ認メテ居ナイ
唯或格段ナル場合例ヘバ代金ノ辨濟ヲ受ケナイ賣主ノ爲メニ留置權ヲ認メラ
アル故ニ此主義ノ下ニ於テハ留置權ハ實際必要ナルコトハ明カデアアル然ルニ

第五百三十三條ノ如キ規定アル以上、今例ニ舉グタ賣買代金ノ支拂ヲ受ケナイ賣主ノ如キハ留置權ヲ有セザルモ、第五百三十三條ノ規定ニ依テ賣品ノ引渡ヲ爲スコトヲ拒ムコトヲ得ル、其レ故ニ一見重複ノ感シガ起ル、然レドモ仔細ニ考フルトキハ此二ツハ別別ノ事柄デアル、第五百三十三條ハ契約關係ヲ定メタモノデアル、雙務契約當事者ノ一方ニ一ノ抗辯權ヲ認メタモノデアル、其權利ノ效力ハ債權法ニ依テ定マルモノデアル、即チ唯相手方ニ對スル抗辯權デアルガ故ニ債權關係ノ效力ナラチバ持タナイモノト云ハチバナラス、之ニ反シテ留置權ハ一ノ物權デアル、第三者ニモ對抗スルコトヲ得ル權利デアル、如何ナル程度ニ於テ此效力ヲ有スルヤハ次回ニ説明シマス、又留置權ト第五百三十三條ノ履行拒絶權ト其適用ノ範圍モ異ナルモノト思フ、留置權ハ雙務契約ノ場合ニ限ラナイ、其代リニ有體物ノ存在ヲ必要トスル、履行拒絶權ハ之ニ反シテ雙務契約ノ場合ニ限ル、其代リニ勞役ヲ目的トスル債務關係ニモ適用アルモノデアル、要スルニ留置權ノ存在スル場合ニハ留置權者ハ一ノ物權ヲ有スルコトガ最も大切ナル點デアル、即チ此二ツノ權利ハ第一ニ觀察ノ方面ヲ異ニスルヨリシテ其效

力ノ如キモ各別別ノ法理ニ依テ定マルモノト解セチバナリマセス、留置權ノ適用セラルル範圍ハ甚ダ廣クアリマス、其中ニモ最も適用多キハ代金ノ辨濟ヲ受ケザル賣主運送人保存者其他占有物ニ付イテ償還ヲ求ムルコトヲ得ベキ費用ヲ支出シタル占有者ノ如キ者ガ此權利ヲ行フ場合デアル、賣主運送人又ハ保存者ノ如キハ留置權ノ外ニ先取特權ヲ有スルコトニ爲テ居リマス、然レドモ先取特權ヲ行フニハ許多ノ費用手數及ビ時日ヲ要スル、而シテ其目的物ヲ競賣シテモ相當ノ價ニ賣レザルコトガアル、縱令相當ノ代價ニ賣レタトシタモ競賣代金ノ上ニ優先權ヲ行ハントスルニ當テハ己ヨリモ先順位ニ在ル先取特權者アテ之ニ凌ガルルコトナイト言ヘス、斯ル場合ニ於テ若シ債務者ニ其不足額ヲ補フ實力アレバ損失ヲ被ルコトハナイケレドモ競賣處分ヲ受タルガ如キ債務者ハ通常實力ナキ者デアル、故ニ先取特權ヲ有スルモ竟ニ全部又ハ一部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハザル結果ト爲ル、之ニ反シテ留置權者ハ留置權者トシテハ競賣代金ノ上ニ優先權ヲ行フコトヲ得ナイケレドモ留置物ノ占有ヲ失ハザル限ハ其占有ノ一事ヲ以テ辨濟ヲ促スコトニ爲ルカラ最も簡便ナル擔

有物ニ付イテハ留置權ヲ有スルコトヲ得ザルモノト解セキバナラス、立法問題デハアルガ是ハ少シク狭キニ失スルカト思フ、稀ナル場合デハアルガ例ヘバ賣買契約ニ於テ或時期マデ所有權ヲ移轉ヲ延バシタ如キ場合ニハ賣主ハ自己ノ所有物ヲ占有スルモノデアル、此場合ニ於テ代金ノ支拂ニ期限ナキトキハ直チニ其支拂ヲ請求スル權利ヲ有スルコトハ當然デアル、固ヨリ己モ引渡ノ義務ヲ履行セキバナラス、然ルニ代金ヲ提供セザル買主ニ對シテ留置權ヲ主張スルコトヲ得ザルモノトスルハ甚ダ謂レナキコトデアル、
他人ノ物トアラバ債務者ノ所有物ト書イテナイ、故ニ必ズシモ債務者ノ所有物タルコトヲ要セナイ、例ヘバ茲ニ他人ノ財産ヲ管理スル者ガ其管理スル所ノ物ヲ修繕スル爲メニ之ヲ或職人ニ交付シタル場合ニ其職人ハ己ガ支出シタ修繕費ニ付イテ留置權ヲ行フコトヲ得ル、是モ留置權ノ物權タル一ツノ效用デアリマシタ物ノ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハナイ、斯ル場合ニ於テ留置權ニ因テ擔保セララル債還ノ債務ハ畢竟所有者ニ於テ負擔セキバナラスモノデアルガ故ニ直接ニ之ニ對シテ留置權ヲ行フコトヲ得ルモノトスルハ毫モ不當デナイト考ヘマ

其權利ヲ行フヲ得サルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ親族會戶主ニ代リテ其權利ヲ行フコトヲ原則トス然レトモ戶主ニ對シテ親權ヲ行フ者アルトキハ第八百九十五條ノ規定ニ依リ又後見人アルトキハ第九百三十四條ノ規定ニ依リ親權ヲ行フ者又ハ後見人ニ於テ戶主權ヲ行フカ故ニ親族會ヲシテ戶主權ヲ代理セシメサルナリ

第三節 戶主權ノ喪失

戶主權ハ一家組織ノ至重ノ要素ニシテ戶主ニ屬スル權利義務ノ得喪ハ極メテ明確ナルヲ要ス然レトモ分家ヲ爲シ其新ニ一家ヲ立ツルニ因リテ戶主權ヲ取得スル場合ノ如キハ左程重要ナル事ニ非サレハ別ニ民法上ノ規定ヲ要セス又家督相續ニ因ル戶主權ノ取得ハ相續編ノ規定ニ依リテ明白ナルヲ以テ本章ニハ特ニ戶主權ノ取得ニ關スル規定ヲ設クル必要アルコトナシ之ニ反シテ戶主權ノ喪失ニ付テハ其原因種種ニシテ法律ノ明文ヲ以テ特ニ之ヲ規定スルコトヲ必要トスル事項尠シトセサルナリ而シテ戶主權ノ喪失ハ戶主ノ死亡、失踪、又

ハ國籍ノ喪失ニ因リテ生スルコトアリ女戸主カ入夫婚姻ヲ爲シ若クハ入夫婚姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者カ離婚ヲ爲スニ因リテ生スルコトアリト雖モ此等ハ他ニ特ニ規定スル所アルヲ以テ別ニ明文ヲ以テ茲ニ之ヲ規定スルノ必要アラサルナリ然レトモ之ニ反シテ戸主カ隱居ヲ爲シ又ハ一家ヲ廢絶セシムルコトニ因リテ戸主權ヲ喪失スル場合ノ如キハ他ニ之ヲ規定スヘキ適當ノ場所ナキヲ以テ本章ニ其規定ヲ設ケ隨意ニ其戸主權ヲ拋棄シテ濫ニ公私ノ利益ヲ害スルコトナカラシムルヲ要ス是ヲ以テ此第三節ヲ設ケタルナリ

隱居 戸主カ隱居ヲ爲スニハ左ノ二箇ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 滿六十一年以上ナルコト

二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ノ單純承認ヲ爲スコト(第七五二

條舊民法財産取得編第三〇六條)

隱居ハ我邦古來ノ慣習ニシテ戸主カ隱居ヲ爲スノ原因ハ種種アルヘク舊幕府時代ニ在リテ士族ハ身體老衰シテ奉公ノ義務ヲ盡スコト能ハサルヨリ戸主權ヲ其子ニ譲リテ退隱シタリ又一般ニ於テハ老衰シタル戸主カ自ラ家政ヲ執ル

コト能ハサルニ至ルトキハ退隱スルヲ常トスレトモ或ハ然ラズシテ少壯有爲ノ戸主自己ノ安逸ヲ計リ隨意ニ其戸主權ヲ讓リ其力ヲ公私ノ利益ニ盡ササルカ如キコト之ナシトセス又商業ヲ營ム者失敗ノ際其財産ヲ悉ク債權者ヨリ差押ヘラレ失敗ノ影響ヲ家産ニ及ホサンコトヲ恐レテ戸主權ヲ讓ルコトアリ而シテ其原因ノ少壯有爲ノ者カ安逸ヲ計リ又ハ不正ニ債權者ヲ害スル等公益ヲ害シ惡弊アルモノハ許スコトヲ得ヘカラスト雖モ之ニ反シテ老年、病氣等其原因ノ正當ナルモノハ之ヲ許スヘキモノナルヲ以テ新法ハ之ヲ許シテ弊害ノ生セサランコトヲ慮リ或條件ヲ設ケテ之ヲ認メタリ其各條件ニ付キ之ヲ左ニ詳述セン

第一 戸主ハ年齢滿六十一年以上ナルコト

此年齢ニ達スルトキハ老衰シテ自ラ家政ヲ處理スルコト能ハサルモノト認めタルニ出テ而シテ實際ニ於テハ強壯ニシテ家政ヲ執ルニ堪フルト雖モ既ニ此年齢ヲ超エタル以上ハ隱居ヲ爲スコトヲ得

第二 完全ノ能力ヲ有スル家督相續人カ相續ニ付キ單純承認ヲ爲スコト

右第一ノ條件ノミ存スルト雖モ戸主ニ家督相續人ナキトキハ隱居ヲ爲スコトヲ許サス而シテ其家督相續人ハ完全ノ能力ヲ有スル者タラサルヘカラス蓋シ戸主ニ隱居ヲ許スハ専ラ老衰ニ依リ自ラ家政ヲ執ルコト能ハサルニ由ルカ故ニ之ニ代ルヘキ新戸主モ亦自ラ家政ヲ執ルノ能力アラサル者ナルトキハ隱居ヲ許スノ理由存セサルヲ以テナリ然レトモ其相續者カ實際果シテ家政ヲ執ルニ堪フルヤ否ヤハ一ニ事實問題ニ屬シ之ヲ判別スルハ至難ナレハ法律ハ完全ナル能力ヲ有スル家督相續人タルヲ以テ足レリト爲シ其有能力ナルト無能力ナルトハ能力ニ關スル規定ニ從ヒテ定ムヘキモノナレハ未成年者禁治產者準禁治產者及ヒ妻等ヲ相續人ト爲シテ隱居ヲ爲スコトヲ得サルナリ又縱令其家督相續人ハ完全ナル能力ヲ有スト雖モ相續ニ付キ單純承認ヲ爲シタル場合ナラサルヘカラス若シ相續人カ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼單純承認第一〇二三條シタルニ非スシテ相續ニ因リテ得タル財產ノ限度ニ於テノミ相續ヲ承認限定承認第一〇二五條シタルトキハ其隱居ニ因リテ債權者ハ損害ヲ被ルヘキヲ以テ其場合ニ於テハ隱居ヲ爲スコトヲ得ス

隱居ヲ爲スニ付キ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要スルハ論ヲ埃タサルヲ以テ新法ハ舊民法ノ如ク之ヲ條件ト爲サスシテ隱居ノ取消ヲ規定スルニ當リ本人ノ任意ニ出ツタル隱居ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘキ旨ヲ規定セリ(第七五九條舊民法財產取得編第三百六條ニ於テハ配偶者ノ承諾ヲ要スルコトヲ隱居ヲ爲スニ付テノ條件ノ一ト爲シタレトモ本法ニ於テハ其場合ノ如何ヲ問ハス之ヲ其條件ト爲スハ失當ト爲シタリ蓋シ戸主カ戸主權ヲ喪失スルトキハ其配偶者モ亦利害關係ヲ有スルコト甚タ大ナリト雖モ夫カ戸主タル場合ニ在リテ隱居ヲ爲スニ付キ妻ノ承諾アルコトヲ要スルハ我邦ノ人情風俗ニ適應セサルナリ然レトモ之ニ反シテ有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニ當リ夫ノ承諾ヲ得セシムルハ至當ノ制限タルヲ以テ配偶者ノ承諾ハ一般ノ條件ト爲サスシテ有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ限リタル所以ナリ(第七五五條) 舊民法ニ據ルハ其條件ハ法律ハ隱居ヲ爲スニ付キ右ニ舉ケタル條件ヲ具備セスシテ隱居ヲ爲スコトヲ得ル三箇ノ例外ノ場合ヲ規定セリ(舊民法第七五五條) 一 戸主カ疾病、本家ノ相續又ハ再興其他已ムヲ得サル事由アルトキ(第七五三

條舊民法財産取得編第三〇七條 法律カ隱居ヲ爲スニ付キ要スル條件ヲ設ケタルハ實際家政ヲ執ルニ堪フル者カ濫ニ退隱シ一家斷絶スルニ至ランコトヲ恐レタルニ由ル是ヲ以テ年齡滿六十年ニ達セサル者ハ家政ヲ執ルニ堪フルト推定シタレトモ實際其年齡ニ達セスシテ疾病本家相續其他已ムヲ得サル事由アリテ自ラ家政ヲ執ルコト能ハサルコトアリ又分家ノ戸主カ本家ヲ相續シ又ハ再興スルカ如キ場合ニ於テ自家ノ廢絶スルト否トニ拘ハラス從來之ヲ許セシ慣習アリシヲ以テ此ノ如キ場合ニ於テハ家督相續ノ事ニ關スル條件ヲ寬大ニセサルヘカラス而シテ此場合ニ於テ戸主カ隱居ヲ爲スニハ二箇ノ條件ヲ要ス

(一) 裁判所ノ許可ヲ得ルコト 隱居ニ關スル事項ハ從來行政官廳ノ管轄ニ屬セシト雖モ普通ノ條件ニ反シテ戸主カ隱居ヲ爲ス場合ニ於テハ果シテ其特別原因ノ存スルヤ否ヤハ裁判所ノ査定ニ依ルコトト爲セリ若シ然ラスシテ從來ノ如ク願書ヲ受理スルノミニシテ他ニ調査スルコトナク容易ニ之ヲ許ストキハ之カ爲メ本人相續人債權者其他利害關係人ノ利害ニ大

ナル影響ヲ及ボスヲ以テ其手續ヲ鄭重ニ爲シタルナリ茲ニ規定セル裁判所トハ非訟事件手續法第九十條ニ規定スル隱居ヲ爲サントスル戸主ノ住居地ノ區裁判所ナリ

(二) 法定ノ家督相續人アルコト 若シ之アラサルトキハ豫メ家督相續人ヲ指定シ其承認ヲ得ルコト 戸主カ隱居ヲ爲サントスル場合ニ於テ其家督相續人ナキトキニ於テモ之ヲ許スコトト爲ストキハ其家ハ斷絶スルニ至ル結果ヲ生スヘキヲ以テ此條件ヲ設ケタルモノニシテ此場合ニ於テハ相續ニ付テ家督相續人タルヘキ者カ單純承認ヲ爲シタルト限定承認ヲ爲シタルトヲ問フモノニ非サルナリ而シテ家督相續人カ限定承認ヲ爲シ故ラニ債權者ヲ詐害スル弊害ノ如キハ裁判所ノ許可ヲ必要トスルニ依リテ之ヲ防クニ十分下爲シタリ若シ隱居ヲ爲サントスル者ニ於テ右ノ如キ詐害ヲ爲サシカ爲メナルコト裁判所ニ知レタルトキハ裁判所ハ之ニ許可ヲ與ヘサルヘシ

二八 戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスルトキ第七五四條第一項 婚姻ハ

二 人生ノ大倫ナルヲ以テ公益上ノ必要ニ基テ制限ノ外ハ各人ノ意思ニ放任セ
タルヘカラス而シテ本法ハ女戸主ノ存在ヲ認ムルカ故ニ此者カ婚姻ニ因リ
テ他家ニ入ルコトヲ得スト爲ストキハ其結果殆ト女戸主ヲシテ婚姻ヲ爲ス
コト能ハサルシムルニ至ル此ノ如クスルトキハ家ヲ重スル趣旨ニ拘泥スレ
ハ敢テ不都合ナキモノノ如シト雖モ之カ爲メニ私通ヲ爲シ私生ノ子ヲ生シ
風俗ヲ害スル等ノ弊害ヲ生スルヲ免レサルニ至ル是ヲ以テ女戸主カ婚姻ニ
因リテ他家ニ入ルコトハ從來モ許シタル所ニシテ本法モ之ヲ許スコトト爲
セリ此場合ニ於テ他家ニ入ラントスル戸主ハ自家ノ戸主タル權利ヲ失フヘ
キコトハ當然ニシテ此事タルヤ一身一家ノ利害ニ重大ナル關係ヲ有シ且隱
居ノ普通要件ヲ具備セスシテ戸主權ヲ喪失スルモノナレハ蓋ニ之ヲ許スヘ
カラサルヲ以テ法律ハ之ヲ慎重ニシテ此場合ニ於テモ第一ノ場合ノ規定ニ
從フコトト爲セリ即チ家督相續人アルカ若クハ指定シタル家督相續人カ承
認シタルコト及ヒ裁判所ノ許可ヲ得ルコト是ナリ

以上ハ法律カ規定シタル理由ヲ女戸主ニ付キ説キタレトモ此第二ノ場合ハ

獨リ女戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ル場合ニハ限ラス男戸主カ婚姻ニ因リ
テ他家ニ入ル場合ニモ同シタ適用セラルモノトス男戸主カ此規定ニ於ケ
ル必要ハ女戸主ノ如ク大ナラスト雖モ其婚姻セント欲スル女カ他家ノ法定
ノ推定家督相續人タリ若クハ戸主タルニ因リ之ヲ自家ニ入ルコト能ハサ
ル場合ニ於テ其婚姻ヲ禁スルハ亦人情ニ反スルヲ以テ男戸主ノ場合ニモ適
用スルモノトス

戸主カ婚姻ニ因リテ他家ニ入ラントスル場合ニ於ケル普通ノ順序ハ先ヅ相
續人ノ承認ヲ得裁判所ノ許可ヲ經テ隱居ヲ爲シタル後ニ於テ婚姻ヲ爲スヲ
常トス然レトモ戸主カ隱居ヲ爲サス其身分ヲ有スル儘ニテ婚姻ニ因リ他家
ニ入ラントコトヲ届出ツルコトアリ其場合ニ於テ第七百七十六條ノ規定ニ依
リ戸籍吏ハ此届出ヲ受理スルコトヲ得スト雖モ若シ誤リテ之ヲ受理シタル
トキハ其婚姻ハ第七百七十五條ノ規定ニ依リ有效ニ成立スルモノトス故ニ
此場合ニ於テハ或ハ婚姻ヲ解除スルカ或ハ其戸主ヲ廢止スルカ二者中其一
ヲ擇ハサルヘカラス而シテ婚姻ヲ解除スルハ人情ニ反スルカ故ニ寧ロ家ヲ

重セサル戸主ノ權利ヲ失ハシムルノ虞レバニ如カスト爲シ婚姻ニ因リテ隱居ヲ爲シタルモノト看做シ第二項ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ。此第二項ノ法律ノ推定ヲ受タル場合ハ法定ノ推定家督相續人アルコト若クハ豫メ家督相續人ヲ指定シテ其承認ヲ得ルコトヲ要セス亦裁判所ノ許可ヲ受クルコトヲ要セサルナリ。第七五條ノ法律ハ女子モ戸主タルコトヲ認ムルト雖モ公法上ノ關係及ヒ從來ノ慣習ニ於テモ亦家督相續ノ順位ニ於テ女子ハ男子ノ後ニ立タサルヘカラサル立法ノ大旨其他女子一般ノ性質ニ於テモ女子カ戸主タルコトハ一家組織ノ變例ニ屬シ通常男子カ戸主タルヘキハ疑ナキ所ナリ故ニ女子カ一旦戸主ト爲リタルトモ完全ナル能力ヲ有スル家督相續人カ相續ニ付キ單純承認ヲ爲ス以上ハ女子主ノ年齡カ滿六十年ニ達セサルトモ戸主權ヲ讓リテ退隱スルヲ得セシムルハ却テ立法上ノ本旨ニ適シ實際ノ必要ニ應スルモノトス是ヲ以テ女子主カ隱居ヲ爲スニ付テハ年齡ニ關スル條件ヲミテ有恕シタリ。八ノ組合ニハ則チハ親主カ隱居ニ因リ

然レトモ有夫ノ女子主カ隱居ヲ爲ス場合ニハ他ニ一ノ條件ヲ要ス即チ其夫ノ同意ヲ得ルヲ要スルコト是ナリ男子主カ隱居ヲ爲スニ付キ一般ニ其配偶者ノ同意ヲ要スト爲スハ我邦ノ慣習ニ反シ又夫婦ノ倫序ニモ背タモノナルコトハ曩ニ叙述シタル所ナルカ有夫ノ女子主カ隱居ヲ爲ス場合ハ之ニ反シテ夫ノ同意ヲ得ヘキコトハ夫婦間ノ倫序ニ於テ當然ナルヲ以テ此條件ヲ設ケタルナリ

然レトモ右ノ場合ニ於テ夫ハ自己ノ利益ノ爲メニ或ハ不正ノ事由ニ基キ其承諾ヲ與フルコトヲ拒ミ之カ爲メニ隱居ヲ爲スニ必要ナル條件ヲ具備シ且實際隱居ヲ爲スコトヲ得セシムヘキ事情ノ存スルニ拘ハラズ女子主カ隱居ヲ爲スニ同意ヲ與ヘサル弊ナシトセス是ヲ以テ夫ハ正當ノ理由アルニ非ザレハ其妻ノ隱居ヲ爲スヲ拒ムコトヲ得ストノ但書ヲ加ヘタルナリ。無能力者ノ隱居 無能力者カ隱居ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス(第七五六條) 未成年者カ法律行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコト

トヲ要ス「アリテ若シ其同意ヲ得スシテ行爲ヲ爲シタルトキハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シ又第九條ニ於テハ禁治產者ノ行爲ハ之ヲ取消スコトヲ得ルモノト爲シタルハ未成年者又ハ禁治產者カ其法定代理人ノ同意ナクシテ隱居ヲ爲シタル場合ニ於テモ之ヲ取消スコトヲ得ヘキモノナリトノ解釋ヲ爲スコトナシトセス然レトモ隱居ニ關シテハ法律ハ一定ノ事由ヲ限定シ女戸主若クハ六十年以上ノ者ヲ除クノ外ハ裁判所ニ於テ隱居ヲ爲スニ付テノ事由カ果シテ法律ノ許スヘキ條件ニ適應スルヤ否ヤヲ査定スルヲ以テ此場合ニ於テハ無能力者ト雖モ法定代理人ノ同意ヲ必要トスヘキ理由ナシ故ニ此規定ヲ設ケタリ

隱居ノ效力發生ノ時期、隱居ハ隱居者及ヒ其家督相續人ヨリ之ヲ戸籍吏ニ届出ツルニ因リテ其效力ヲ生ス(第七五七條舊民法財産取得編第三一〇條第三一條) 戸主カ隱居ヲ爲シタルトキハ爾後戸主權ヲ喪失シテ一家族ト爲リ又隱居カ確定日附アル證書ニ依リ其財産ヲ留保スル場合第九八八條ヲ除ク外ハ從來戸主トシテ有セシ權利義務ヲ舉ケテ其相續人ニ移轉スルカ如キ效力ヲ生ス

ルヲ以テ何時ヨリ隱居ノ效力ヲ生スルカハ法律ニ於テ明文ヲ以テ規定スル必要アレハ戸籍吏ニ届出タル時ヲ以テ其時期ト爲シタルモノニシテ此主義ハ婚姻ニ關スル第七百七十五條及ヒ養子縁組ニ關スル第八百四十七條等ノ規定ト同シク一般ニ本法ニ採用セラレタルモノナリ 隱居ハ取消、戸主カ法定ノ條件ヲ具備セスシテ隱居ヲ爲シタルトキハ其要件ノ性質ニ從ヒ或ハ全ク無効ト爲ルコトアリ或ハ其效力ニ瑕疵ヲ生スルコトアリ隱居ハ隱居者及ヒ家督相續人ヨリ之カ届出ヲ爲ササルトキ隱居者ノ意思欠缺シタルトキ等ニ於テハ初ヨリ無効ナルモノナレトモ今茲ニ檢覈スルモノハ此等無効ノ場合ニ非スシテ隱居ヲ爲スニ付キ瑕疵アリテ之ヲ取消ス場合はナリ而シテ先ツ隱居ノ取消權ヲ有スル者ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 隱居者ノ親族及ヒ檢事

二 女戸主ノ夫

三 隱居者及ヒ家督相續人

隱居取消ノ原因ハ之ヲ分チテ二ト爲スコトヲ得其一ハ法律ノ規定ニ違反シタ

ル場合ニシテ他ノ一ハ隱居者ノ意思ニ瑕疵アル場合はナリ、
(一) 隱居者ノ親族及ヒ檢事ハ隱居カ第七百五十二條又ハ第七百五十三條ノ規定ニ違反シタルトキ換言スレハ隱居ノ普通ノ場合ニ於テ隱居者カ滿六十年ニ達セサル者ナルトキ完全ノ能力ヲ有スル家督相續人ナキトキ、又ハ家督相續人カ限定承認ヲ爲シタルトキ、又戸主カ裁判所ノ許可ヲ得テ隱居ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其事由カ疾病其他已ムヲ得サルニ非サルトキ、又ハ家督相續人ノ承認ヲ得サルトキ等ハ隱居ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得第七百五十八條舊民法財産取得編第三〇八條第三〇九條第一項而シテ其取消權ハ隱居ノ届出ノ日ヨリ三箇月以内ニ爲ササルトキハ消滅スヘキナリ、
隱居者ノ親族ハ其血族ナルト姻族ナルトヲ問ハス隱居取消ニ付キ利害關係ヲ有スルトキハ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得又檢事ニ隱居ノ取消權ヲ與ヘタルハ檢事ハ常ニ社會ノ秩序ヲ保持スルヲ以テ其職ト爲スモノナレハ隱居取消ノ如ク公益ニ關スルコトニ付キ國家自ラノ機關ヲシテ之カ取消ノ請求ヲ爲サシムルコトハ當然ノ事ニ屬ス

裁判所構成法第六條及ヒ民事訴訟法第四二條ノ規定ニ依レハ檢事ハ民事訴訟ニ付テハ法律カ命ジタル場合ニ於テ或種類ノ訴訟ニ付キ又自ラ必要ナリト認メタルトキハ其種類ノ如何ヲ問ハス其口頭辯論ニ立會ヒテ意見ヲ述フルニ止マレトモ親族編及ヒ人事訴訟手續法ノ規定ニ於テハ檢事ハ事件ニ付キ單ニ意見ヲ述フルニ止マラスシテ其當事者ト爲ルコトアルモノニシテ本條ノ規定ノ如キハ即チ是ナリ此ノ如キハ財產權上訴訟ニ絶エテ見サル所ナレトモ親族編ノ規定ハ曩ニモ叙述シタルカ如ク公益ニ關スルモノ多クシテ檢事カ訴訟ノ當事者ト爲ルハ公益ニ關スル場合ニ限リ其場合ハ特ニ明文ヲ以テ規定セルナリ檢事カ此等ノ訴訟ニ關與スルコトニ付テハ尙ホ人事訴訟手續法ヲ參照スヘシ
(二) 有夫ノ女戸主カ其夫ノ同意ヲ得シテ隱居ヲ爲シタルトキハ夫ハ右同一ノ期間内ニ於テ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得第七百五十八條第二項舊民法財産取得編第三〇九條第一項人ノ親ヲ遺棄スルハ懲罰ニ因リテ罰金ヲ課スルノ規定ニ説キタルカ如ク有夫ノ女戸主カ隱居ヲ爲スニハ其夫ノ同意ヲ得ヘキ規定アル以上其同意ヲ得サル場合ニ之カ制裁トシテ夫ヲシテ隱居ノ取消ヲ得セ

前ニ舉ケタル二箇ノ場合ハ隱居カ法律ノ規定ニ違反シタル場合ナレトモ此場合ハ隱居者及ヒ家督相續人ノ意思ニ瑕疵アル場合ナリ此詐欺又ハ強迫ノ性質ハ總則編ノ法律行爲ノ取消ニ關スル規定第一一九條以下同一ナルヲ以テ其解説ハ總則編ニ譲リ茲ニ之ヲ説カサレトモ隱居カ本人ノ任意ニ出ツルコトヲ要スルハ別ニ法律ノ明文ヲ缺タスシテ明カナルニ隱居者又ハ家督相續人カ他人ヨリ詐欺又ハ強迫ヲ受ケ之ニ因リテ隱居届出ヲ爲スニ至ルコトハ往往アル所ノ事實ナリ此場合ニ於テモ詐欺又ハ強迫ヲ受ケテ普通ノ法律行爲ヲ爲シタル者カ之ヲ取消スコトヲ得ルト同シタ隱居ノ届出ヲ爲シタル隱居者又ハ家督相續人ニ之ヲ取消權ヲ與ヘサルヘカラス

此取消權ハ詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ免レタル後ニ於テハ隱居者又ハ家督相續人ノミニ屬シ其他ノ者ニハ屬セザレトモ未タ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レタル間ハ右兩者ノ外尚ホ隱居者又ハ家督相續人ノ親族又ハ檢事ハ隱居ノ取消權ヲ有スルコト爲セリ

此取消權ヲ設ケタル目的ハ主トシテ其瑕疵アル意思ヲ表示シタル者ノ利益ヲ保護セント欲スルニ在リ故ニ其權利ヲ行使スルハ亦其瑕疵アル意思ヲ表示シタル者ナラサルヘカラス然レトモ瑕疵アル意思ヲ表示シタル者ハ其意思ノ瑕疵アル所以ヲ知り又ハ自由ニ意思ヲ表示シ得ルニ至リタル後ニ非サレハ之ヲ取消スヲ得サルナリ而シテ隱居ハ管ニ隱居者及ヒ家督相續人ノ利害關係アルノミナラス其他公益及ヒ私益ノ上ニ重要ノ關係ヲ有スルモノナルヲ以テ表示者自身ニ於テ取消ヲ請求スルコトヲ得サル間ハ公益ヲ代表スル檢事及ヒ私益ヲ保護スヘキ隱居者又ハ家督相續人ノ親族ヲシテ之カ取消ヲ請求スルコトヲ得セシムヘキ必要アリ然レトモ隱居者又ハ家督相續人カ詐欺ニ因リテ隱居ノ届出ヲ爲シタルコトヲ了知シ又ハ隱居ノ届出ヲ爲スコトヲ強要セラレタルモ

既ニ此強迫ノ狀態ヲ脱シテ隨意ニ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ得ル狀態ニ復シタルニ拘ハラス本人ヨリ其取消ヲ請求セサルニ於テハ縱令多少ノ利害關係ヲ有スル親族又ハ公益ヲ保護スル檢事タリトモ他ヨリ隱居ノ取消ヲ請求シテ却テ當事者ノ意思ニ反スル結果ヲ生スルコトナキニ非ス是ヲ以テ本法ハ唯隱居者又ハ家督相續人カ隱居ノ届出ヲ詐欺ニ因リテ之ヲ爲サシメラレタルコトヲ知ラス又ハ隱居ノ届出ヲ爲スコトヲ強要セラレタル狀態カ仍ホ存續スル間ノミ親族又ハ檢事ヲシテ隱居ノ取消ヲ請求スルコトヲ許シタル所以ナリ親族又ハ檢事ノ有スル此取消權ハ其取消請求ノ後ニ隱居者又ハ家督相續人カ其任意ニ出テサル隱居ヲ追認シタルトキハ直チニ消滅スルモノトス蓋シ本人カ詐欺ヲ發見シ又ハ強迫ヲ脱シタル後ニ於テ自ラ之ヲ取消サスシテ却テ追認ヲ爲シタル場合ニ於テ他ヨリ強ヒテ家内ノ私事ニ干渉シ隱居ヲ取消サシムヘキ理由ナク此場合ニ於テハ當事者ノ意思ニ從ハシメサルヘカラス然レトモ詐欺ヲ發見セス又ハ強迫ヲ免レサル間ハ其請求權發生セサルモノナ

レハ其狀態ニシテ長ク存在スルニ於テハ此取消權ノ消滅スヘキ期ナク隨テ隱居者ノ身分曖昧ニ屬シ長ク確定セサルヲ以テ隱居届出ノ時ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ時効ニ因リテ消滅スルコトト爲シタリ此取消權ヲ設ケタル趣旨ハ一般ノ取消權ノ規定第一二六條ト同一ナレトモ隱居ノ取消ハ身分上及ヒ財産上ニ大ナル影響ヲ及ホスモノナレハ隱居者ノ身分曖昧ニ屬シ長ク確定セサルハ不都合ナルヲ以テ單ニ財産上ノ關係ニ止マル一般ノ取消ノ場合ニ比シ一層速ニ其身分ヲ確定セシメンカ爲メニ設ケタルニ外ナラサルナリ然レトモ其取消權ノ性質ニ付テハ彼此同シカラサルモノアリ即チ一般ノ取消權ノ場合ハ時効ナレトモ本條第七五九條第一項ハ一年ノ期間ハ時効ニ非スシテ法律カ設ケタル豫定期間ナレハ如何ナル場合ニ於テモ延長スルコトナシ故ニ此期間ハ時効ニ關スル規定ノ適用ヲ受クルコトアラサルナリ之ニ反シテ本條末項ニ規定セル十年ノ期間ハ法律カ時効ナルコトヲ明言セルヲ以テ時効ニ關スル規定ニ從フヘキヤ論ヲ埃タサルナリ主權ノ喪失隱居取消ノ第三者ニ對スル效力 隱居カ取消サレタルトキハ總則ノ規定第一

二一條ニ從ヒ其效力ハ既往ニ遡及シ最初ヨリ隱居者ハ隱居ヲ爲サス家督相續人ハ之カ相續ヲ爲ササリシモノト看做サレ隱居者ハ其戸主權ヲ回復シ其家督相續人ハ再ヒ戸主ノ推定家督相續人ト爲リ若クハ他家ヨリ入リタル者ナルトキハ他家ニ復歸ス而シテ家督相續人カ相續ニ因リテ得タル財産其他權利義務ハ擧ケテ之ヲ戸主權ヲ回復シタル隱居者ニ返還スルモノトス(第七六〇條)以上ノ規定ニ依ルトキハ左ノ問題ハ如何ニ決スヘキヤ

- (一) 隱居者カ最初戸主タリシトキ負擔シタル債務ノ相續ニ因リテ家督相續人ニ承繼シタルモノハ隱居者カ戸主權ヲ回復シタルトキ其債權者ハ何人ニ對シテ之カ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルカ此問題ハ最モ賭易キモノニシテ隱居カ取消サレ最初ヨリ之ナカリシモノト看做サルルカ故ニ債權者ハ單ニ戸主權ヲ回復シタル者ノミニ對シテ請求ヲ爲スコトヲ得
- (二) 隱居者カ暫時隱居セシ間ニ負擔シタル債務ハ如何此債務ハ隱居者カ戸主權ヲ有セサリシ時ニ負擔シタルモノナレトモ其身分ニ變更アルニ拘ラス戸主權ヲ回復シタル隱居者カ辨濟スヘキモノニシテ此債務ハ毫モ家督相續人

ハ關係ヲ有セサルナリ

(三) 隱居カ取消サレタル場合ニ於テ家督相續人カ暫時相續シテ戸主タリシトキ負擔シタル債務ニ付テハ其債權者ハ何人ニ對シテ之カ辨濟ヲ請求スルコトヲ得ルカ此問題ハ右ノ取消ノ原則ニ從フトキハ家督相續人ハ隱居ノ取消ニ因リテ最初ヨリ相續シタルコトナカリシモノト看做サルルカ故ニ其債權者ハ此家督相續人タリシ者ノミニ對シテ請求スルコトヲ得ルニ止マリ隱居ノ取消ニ因リテ再ヒ戸主ト爲リタル者ニ對シテハ請求ヲ爲スコトヲ得サレトモ然レトモ通常債權者ハ其相手方カ戸主タル身分ヲ有スルコトニ重キヲ置キ其家ニ屬スル財産ニ著眼シテ債權者ト爲ルモノナレハ一朝隱居ノ取消ニ因リテ戸主タル者ニ對シテ辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得サルモノト爲ストキハ之カ爲メニ意外ノ損失ヲ被ルコトアリ是ヲ以テ隱居取消ノ場合ニ於テ債權者ノ利益ヲ保護シ取引ノ安全ヲ保タシメントスルニハ隱居ノ取消以前ニ家督相續人即チ其當時ノ戸主タル者ノ債權者ト爲リタル者ヲシテ隱居ノ取消ニ因リテ戸主ニ復シタル者ニ對シテモ亦辨濟ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノト爲ササルヘカラス是

レ債權者ヲ保護スル爲メニ取消ノ效果ニ對シテ特ニ設ケタル例外ナリ然レトモ家督相續人カ相續以後隱居ノ取消以前負擔シタル債務ハ元來右取消ノ效果トシテ最初ヨリ家督相續人タラサリシモノト看做サル者カ負擔シタルモノナレハ其負擔ハ債權者カ戸主權ヲ回復シタル者ニ對シテ請求スルコトヲ得ヘキ例外ノ規定ヲ設ケラレタルカ爲メニ免ルモノニ非サルヲ以テ法律ハ特ニ但書ヲ以テ之ヲ明カニシタリ

以上ノ規定ハ債權者カ隱居取消ノ原因アルコトヲ知ラスシテ一時家督ヲ相續セシ者ヲ戸主ト信シテ取引シタル場合ニ關セリ債權者カ隱居取消ノ原因アルコトヲ了知シテ債權者ト爲リタルトキハ右ト同一ノ規定ニ依ルコト能ハス此場合ニ於テハ債權者ハ家督相續人ノ戸主タル身分ニ重キヲ置カスシテ却テ其者ノ一身上ニ著眼シ後日隱居カ取消サルトモ自己ノ利害ニ關係ヲ有セサルコトヲ豫期シタルモノト謂ハサルヘカラサルヲ以テ此債權者ニハ特別保護ヲ與ヘサル所以ナリ

(四) 家督相續人カ其相續以前ヨリ負擔セル債務及ヒ其一身ニ專屬セル債務ハ

如何家督相續人カ相續セサル以前ニ負擔シタル債務ニ付テハ其債權者ハ毫モ其家ニ屬スル財産ニ著眼シタルモノニ非サレバ此場合ニ於テハ戸主權ヲ回復シタル者ニ對シテ請求スルコトヲ得サルハ論ヲ俟タスシテ唯家督相續人ニ對シテ請求スルコトヲ得ルニ過キサリナリ又其一身ニ專屬スルモノハ縱令家督相續人タリシトキ負擔シタルモノナリト雖モ是レ亦其家ニ關係ナキモノナレハ家督相續人ニ對シテ請求スルヨリ外アラサルナリ

以上ノ如ク債權者カ現戸主又ハ前戸主タリシ者ニ對シテ請求權ヲ有スルハ家督相續開始ノ原因中隱居ノ場合ニ限レルモノニシテ正當ナラサル者カ家督相續ヲ爲シタルヨリ正當ノ相續權者カ相續權ヲ回復シタル場合ニ於テ第三者カ其表見相續人ヨリ取得シタル權利殊ニ其取得ニ付キ登記ヲ要スル權利ノ如キハ相續權ヲ回復シタル相續人ハ之ヲ回復スルコトヲ得ヘキモ隱居取消ノ場合ノ如ク表見相續人ノ爲シタル行爲ニ羈束セラルルコトアラサルナリ

隱居及ビ入夫婦、姻ニ因ル戸主權喪失ノ第三者ニ對スル效力第七六一條 舊民法ノ規定財產取得編第三〇九條ニ依レハ隱居者カ債權者ヲ詐欺スルノ意思ヲ

以テ隱居セントスルトキハ債權者ハ之ニ故障ヲ申立テ隱居ヲ取消サシムルコトヲ得ト雖モ隱居ハ人事ニシテ公益ニ關スル規定ナルニ私益即チ單純ナル財産關係ニ因リテ債權者ヲシテ之ニ干涉セシムルハ其當ヲ得サルヲ以テ新民法ハ債權者ヲシテ隱居ノ取消ニハ容喙セシメサルコト爲セリ然リト雖モ隱居ヲ爲スコトハ隱居者ノ債權者及ヒ債務者ニ重要ナル利害關係ヲ及ホスモノナルヲ以テ縱令隱居ノ效力ハ其届出ニ因リテ既ニ發生シタルモ未タ隱居ノ事實ヲ知ラサル者ニ對シテ其效力ヲ有スルモノト爲ストキハ其債權者及ヒ債務者ハ之カ爲メニ往往意外ノ損失ヲ被ルコトヲ免レサルヲ以テ此等ノ者ヲ保護スルカ爲メニ前戸主又ハ家督相續人ヨリ前戸主ノ債權者及ヒ債務者ニ其通知ヲ爲シタル後ニ非サレハ戸主ノ變更ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得サルモノト爲シタリ

入夫婦姻ニ因リテ前女戸主カ其戸主權ヲ喪失スル場合モ前戸主ノ債權者及ヒ債務者カ有スル利害關係ハ猶ホ隱居ノ場合ニ同シキヲ以テ法律ハ之ト同一ノ規定ニ依ラシメタリ

ニ非サレハ手形ノ圓滿ナル行動ハ期スヘカラス而シテ支拂人カ主タル債務者タランニハ法律所定ノ一定ノ方式ヲ履行セサルヘカラス之ヲ名ケテ手形ノ引受ト謂フ手形ノ引受トハ支拂ノ委託ヲ受ケタル第三者支拂人カ支拂ノ主タル債務者タルコトノ要式的意思表示ナリ此ノ如ク引受ヲ爲シタル人ヲ引受人ト謂フ

支拂人カ引受ヲ爲シタルトキハ其行爲ヲ爲シタル時ヨリ引受人ト爲ル引受人ハ約束手形ノ振出人ト同シク獨立ノ主タル債務者トシテ期日ニ至リテ手形金額ヲ支拂フヘキ手形上ノ義務ヲ負擔ス隨テ引受人カ支拂ヲ爲シタルトキハ手形ハ此ニ消滅ス之ヲ要スルニ手形法上支拂人ト謂フハ手形當事者中支拂ノ委託ヲ受クル地位ニ立ツ者ヲ謂フモノニシテ支拂義務者ニ非ス唯引受ヲ爲シ引受人タルニ至リ始メテ手形債務者ト爲ルモノナルヲ以テ此名稱ノ區別ハ混同セサルコトヲ要ス即チ支拂人ト云ヘハ未タ債務者ニ非サルモノヲ指稱シ引受人トハ既ニ債務者タルモノヲ謂フ而シテ其債務者タルト然ラサルトハ手形法ノ適用上著シキ差異アルノミナラス民法ノ適用上又大ナル差異アルモノナル

ヲ以テ此點ハ特ニ注意ヲ要スルモノナリ。蓋シ海關主權大權ニ於テハ、
手形ノ引受ハ支拂人自ラ進ミテ之ヲ爲スモノニ非ス。手形ヲ所持人ヨリ手形ヲ
提出シテ引受ヲ求ムルヲ待タテ之ヲ爲スモノトス。故ニ支拂人ヲシテ引受人タ
ル手形債務者ト爲スニハ手形ヲ支拂人ニ呈示セサルヘカラス之ヲ引受ノ爲メ
ニスル呈示ト謂フ手形ノ受取人ハ何時ニテモ手形ヲ呈示シテ引受ヲ求ムルニ
トラ得然レトモ引受ヲ求ムル者ハ必スシモ第一ノ債權者タル受取人ノミニ限
ラス手形カ讓渡サレ所持人ハ常ニ輾轉變更スルモノナルカ此等所持人ノ何人
トタモ皆未タ手形ノ引受ナキトキハ支拂人ニ手形ヲ呈示シテ引受ヲ求ムルコ
トラ得ルモノトス。故ニ手形ノ引受ハ振出當時手形カ尙ホ受取人ノ手ニ存在ス
ルトキニ行ハルルコトアリ又ハ受取人ノ手ヲ脱シ其後ノ讓受人間ニ流通スル
際ニ於テ行ハルルコトアリ。偕手形ノ振出サルルヤ手形ハ多ク場合ニ於テ單
ニ受取人ノ手ニモ存在シ受取人ニ支拂ハレテ直チニ消滅スルモノニ非ス。受
取人ノ手ヲ離レテ多數ノ當事者間ニ流通シテ後支拂ハレ消滅ニ歸スルヲ普通
トス。此流通ハ即チ手形ノ裏書讓渡ナル方法ニ依リテ行ハルルモノナリ。蓋シ手

ニ對シ手形ノ引受ケラルヘキコト及ヒ支拂ハルヘキコトニ付キ擔保義務ヲ負擔ス蓋シ手形ノ引受カ拒マルルトキハ各裏書人ハ後者ニ對シ相當ノ擔保ヲ供セサルヘカラス又満期日ニ至リ支拂カ拒マルルトキハ法定ノ損害額ヲ償還セサルヘカラス此ノ如ク裏書人ニ擔保義務ノ存在スルヲ名ケテ裏書ノ擔保力ト謂フ振出人モ亦同様ノ擔保義務ヲ負擔ス是レ全ク手形ノ信用ヲ厚カラシメ安全ナル流通ヲ期スル法ノ制度タルニ外ナラス

上達ノ如ク手形ハ裏書ニ依リ流通シ其連續ニ缺クル所ナキニ於テハ満期日ニ至リ支拂ハレテ此ニ消滅ス而シテ上來説明セル所ハ手形ノ振出ヨリ裏書讓渡ヲ經テ支拂ニ至ルマデノ單純ナル手形ノ行動ナリ此ノ如ク平坦ナル行動ヲ以テ手形カ消滅スルコトハ最も普通ニシテ經濟上圓滿ナル手形ノ行動ナレトモ經濟界ノ不振ナルニ際シテハ此ノ如キ故障ナキ行動ヲ取ルコト能ハス時トシテハ引受カ拒絶サレ又時トシテハ支拂カ拒絶サル等手形ノ行動ニ變調ヲ來スコトアリ是ニ於テカ手形ノ法律關係複雜ト爲リ種種煩雜ナル法ノ規定ニ支配サルルニ至ルモノトス以下順次之ヲ説明スヘシ

手形ノ振出ナレタル後先ツ普通ノ順序トシテ手形ノ所持人カ支拂人ニ對シテ手形金額ヲ支拂フヘキ旨ノ手形義務ヲ負擔スヘキコトヲ求ムルコトハ前既ニ之ヲ述ヘタリ然ルニ支拂人カ支拂ヲ爲スヘキ義務ヲ負擔スルコトヲ拒ミタルトキハ之ヲ引受拒絶ト謂フ此場合ニハ受取人或ハ所持人ハ其旨ヲ證明スヘキ書面ヲ作成スルコトヲ得之ヲ引受拒絶證書ト名ケテ引受拒絶證書ハ支拂人カ引受ニ應セサリシ旨ヲ記載セル書面ニシテ法定ノ形式ヲ履ミテ執達吏又ハ公證人ノ作成スルモノナリ此ノ如ク拒絶證書ヲ作ラシメタル者ヲ被拒絶者ト謂ヒ其相手方ヲ拒絶者ト謂フ元來手形ノ振出人及ヒ裏書人ハ手形ノ引受ケラルヘキコトニ付テハ手形法ノ規定ニ依リ當然責任ヲ負擔スルモノナルヲ以テ此ノ如ク引受カ拒絶ナレタルトキハ手形ノ所持人ハ此等ノ前者ニ對シテ相當ノ擔保ヲ供スヘキコトヲ請求スルコトヲ得此請求ハ引受拒絶證書ヲ作成セシメタル後ニ非ザレハ之ヲ行使スルコトヲ得サルモノトシタリ此請求權ヲ名ケテ擔保請求權ト謂フ

諸手形カ流通シテ満期日ノ到來スルニ至ラハ所持人ハ引受ノ有無ニ拘ハラヌ

支拂人又ハ引受人ニ對シテ支拂ヲ請求スヘシ然ルニ支拂ノ請求ヲ受ケタル者カ支拂ヲ拒絶シタルトキハ支拂拒絶證書ナルモノヲ作り手形面ノ金額法定利息並ニ費用ヲ合算シ振出人以下ノ前者ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得此權利ヲ稱シテ償還請求權ト謂フ蓋シ振出人以下ノ裏書人ハ亦法律上手形ノ支拂ハルヘキコトニ付キ當然責任ヲ負擔スルモノナレハナリ此償還請求權ヲ行使スルニ付キ要スヘキ支拂拒絶證書ナルモノハ恰モ引受拒絶證書ニ於ケルカ如ク公證人又ハ執達吏ヲシテ支拂ノ請求ヲ受ケタル者カ支拂ヲ拒ミタル旨ヲ法定ノ形式ニ依リ記載セシメタル書面ナリ

上來述ヘタルカ如ク引受ナキ場合ニハ擔保請求ノ途アリ支拂拒絶ノ場合ニハ償還請求ノ方法アリト雖モ此等ハ多少ノ手數ヲ要シ隨テ不便ナルノミナラス又多少ノ失費ヲ免レス此等ノ費用ト不便ヲ除クカ爲メニ振出人又ハ裏書人ハ手形ニ豫メ此ノ如キ場合ニ引受ヲ爲シ又ハ支拂ヲ爲スヘキ特定ノ人ヲ記入スルコトヲ得豫備支拂人即チ是ナリ豫備支拂人ノ記載アル場合ニハ所持人ハ手形ノ引受カ拒マルレハ豫備支拂人ニ引受ヲ求メタル後ニ非サレハ前者ニ對シ

テ擔保ヲ請求スルコトヲ得又支拂カ拒マルレハ豫備支拂人カ更ニ支拂ヲ拒絶シタル後ニ非サレハ前者ニ對シテ償還ヲ求ムルコトヲ得而シテ豫備支拂人カ引受ヲ爲スカ又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ擔保請求又ハ償還請求ノ事情ヲ全然消滅セシムルモノニシテ所持人ハ前者ニ廻リテ擔保ヲ請求シ又ハ償還ヲ請求スルノ不便ト之ニ伴フ失費ヲ除クコトヲ得ルナリ此ノ如ク豫備支拂人カ手形ヲ引受ケ又ハ支拂ヒタルトキハ手形ニ參加シタルモノニシテ即チ參加ト爲ル然レトモ所謂純然タル手形ノ參加ナルモノハ豫備支拂人以外ノ者ノ參加ヲ謂フモノニシテ是レ亦擔保又ハ償還ノ事情アル場合ニ於テ之ヲ打消シ引受拒絶又ハ支拂拒絶ヨリ生スル不便ト費用トヲ除キ以テ手形ノ信用ヲ維持スル一ノ制度ニシテ其趣意ハ豫備支拂人ヲ設定スルト異ナルコトナシ唯豫備支拂人ナルモノハ擔保又ハ償還請求ノ事情ノ發生セサル以前ヨリ豫メ振出人又ハ裏書人ノ設定スルモノナレトモ所謂純然タル參加ニ於テハ豫メ規定シタル人ニ非サル者カ引受拒絶又ハ支拂拒絶ノ事情發生スルト同時ニ手形關係ニ介入シテ手形ノ引受人ハ支拂ヲ爲シテ手形ノ圓滿ナル終末ヲ圖ラントスルモノ

ニシテ此ノ如キ人ヲ名ケテ參加人ト謂フ之ヲ要スルニ參加ニハ二種アリ即チ參加引受及ヒ參加支拂是ナリ而シテ參加ナルモノハ必ス特定セル手形債務者ノ利益ノ爲メニ爲スモノニシテ其特定ノ手形債務者ヲ名ケテ被參加人ト謂フ以上述ヘタル豫備支拂人及ヒ純然タル參加ノ制度ハ皆何レモ手形ノ信用ヲ維持スル方法ナリト雖モ尙ホ此以外ニ於テ手形ノ信用ヲ擔保スル一ノ制度アリ即チ手形ノ保證是ナリ手形ノ保證人トハ豫備支拂人ニ非スシテ手形債務者ノ署名ニ自己ノ署名ヲ添ヘ手形上ノ債務ヲ負擔スルモノニシテ通常ノ保證ト異ナリ手形ノ保證ハ形式上ニ從タル債務ナリト雖モ實質上ハ獨立ノ債務ナリ且債務者ト共ニ連帶シテ債務ヲ負擔スルモノナリ

第三章 手形ノ經濟上ニ於ケル作用

前章ニ於テ述ヘタル手形ノ法律上ノ性質竝ニ特ニ手形ニ關スル諸種ノ法律關係ハ其趣旨トスル所何レモ皆手形ノ確實安全ニシテ而モ容易ナル流通ヲ圖ルノ目的ニ非サルハナシ即チ手形ノ債權タル其原因ノ證明ヲ要セス債務者ハ手

形文面ニ從ヒテ責任ヲ負ヒ文面以外ノ事項ヲ以テ抗辯ト爲スコトヲ得ス債權者ハ他ニ何等ノ證明ヲ要スルコトナク單ニ一面ノ手形ヲ以テ其債權ヲ主張シ得ルコト債務者ハ支拂ニ何等ノ條件ヲ附スルコトナク單純ノ支拂ヲ爲ササルヘカラサルコト又手形上ノ各債務ハ各獨立シ他ノ債務ノ有效又ハ無効ノ影響ヲ受ケサルコト或ハ振出人裏書人等ニ重大ナル擔保義務ヲ負ハシメ其他參加保證等ノ制度ヲ設クル等一トシテ手形ノ信用ヲ篤カラシメ其流通ヲ容易ニシ且債權ノ實行ヲ確實安全ナラシムルノ趣旨ニ非サルハナシ是レ即チ商業上手形ノ最も重セラルル所以ニシテ苟モ文明諸國ニシテ手形ノ使用セラレサル處ナク商業ノ盛大ナル國程益多クノ手形ヲ使用シ特ニ巨額ノ取引ニ至リテハ正金若クハ紙幣ヲ以テ取引ヲ爲スハ頗ル稀ナルノミナラス銀行ノ預金ノ如キモ皆多クハ手形ヲ以テ之ヲ爲スヲ常トス隨テ手形ノ流通盛大ナレハ盛大ナル程貨幣ハ益々少額ニテ足ルヘク手形ハ大ニ貨幣ノ缺乏ヲ調和ス此ノ如ク手形ノ經濟上ニ於ケル利益一ニシテ止マラス今左ニ其大要ヲ略述スヘシ

經濟上ニ於ケル手形ノ利益ハ大別シテ二ト爲スコトヲ得一ハ送金上ノ便益ニ

ハ金融上ノ便益ナリ送金上ニ於ケル手形ノ利益ハ手形歴史ノ初期ニ於テ起ルモノニシテ金融上ノ利益ハ手形ノ發達ニ伴ヒ比較的近時ニ起リシモノナリ先ツ送金上ノ利益ヨリ之ヲ説カン

第一 送金上ノ利益

送金上ノ利益トハ現金輸送ノ危険ヲ除キ費用ヲ省クコトヲ得ルコト是ナリ抑モ手形ノ起源ハ實ニ此送金上ノ不便ヲ除クノ必要ニ迫マラレタルニ基クモノニシテ其利益ヲ了解センニハ須ク先ツ手形ヲ存在セサルモノトシテ考フレハ明カナルヘシ今若シ手形カ存在セストセハ甲地ヨリ乙地ニ支拂ヲ爲サントスル者ハ已ムナク現金ヲ輸送セサルヘカラス然ルニ現金ノ輸送ハ非常ノ費用ヲ要スルノミナラス中途ニ於テ盜難紛失等ノ恐アリ殊ニ古昔ニ於テハ警察權ノ行動普カラス運搬中ノ危険甚タ多ク且國ニ依リテハ一種ノ經濟主義ヲ維持シテ國外ニ現金ヲ輸出スルコトヲ嚴禁セル例尠シトセス手形ナキニ於テハ彼此ノ爲メ商業ハ頗ル拘束セラレテ自由ニ發達スルコトヲ得サルハ言フ埃タス然ルニ此等ノ不便ハ總テ手形ノ作用ニ依リテ全ク除去セラル蓋シ手形ヲ以テ支

拂ヲ爲セハ此ノ如キ費用ヲモ要セス又危険ナキニ至レハナリ

第二 金融上ノ利益

金融上ノ利益ハ手形ノ發達セル時期ニ於テ起リタルモノニシテ現今ノ經濟上手形ノ效用著大ナルハ全ク此點ニ在リ手形ハ時ノ經過スルニ從ヒ漸次其效用ヲ廣メ單ニ送金上ノ利益ニ止マラス一轉シテ金融上ノ利益ヲ生スルニ至レリ而シテ此利益ハ裏書ノ制度ノ發達ニ伴ヒ益顯著ナルニ至レリ或學者カ手形ノ商業上ニ於ケル流通ノ作用ヲ以テ恰モ血液ノ人體ニ於ケル循環ニ比シタルハ復タ過言ニ非サルナリ今其重ナル金融上ノ利益ヲ舉示スレハ左ノ如シ

一 手形ニ依リ商人ハ自己ノ信用ヲ轉化シテ貨財ト爲スコトヲ得 例ヘハ愛ニ甲ナル商人アリ信用ヲ有スルニ於テハ自己ニ對シ負債ヲモ有セサル乙ナル商人ニ宛テ四箇月後拂ノ手形ヲ振出し自己ハ其手形ヲ賣リ金錢又ハ商品ヲ得テ手形期限到來マテノ間ニ之ヲ運轉スルノ利益ヲ得其中期限ニ至レハ甲ハ乙ニ手形ノ資金ヲ供シ以テ手形ノ支拂ヲ完了セシムルコトヲ得ヘシ若シ手形ナキニ於テハ甲ハ此ノ如キ利益ヲ受タルコト能ハサルヘシ

二 時期ヲ擇ハス之ヲ利用スルコトヲ得 手形ニハ必ス支拂期日ナルモノアリ其期日ニ至ラサレハ現金ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ス所持人ハ又手形ヲ賣却シテ金錢ヲ得ント欲スルモ適當ノ希望者ナキニ於テハ空シク手ヲ束テ期限ノ到來ヲ待タサルヘカラス然ルニ期日ニ至リテ支拂ヲ求ムルニハ法律ニ定ムル所ノ手續ヲ履行セサルヘカラサルノ不便アルノミナラス商人ノ常トシテ商業上ノ機會如何ニ依リ支拂期限前ニ現金ヲ要スルコト切ナルコト多シ此ノ如キ場合ニハ何時ニテモ銀行ニ依リ割引ヲ求メテ現金ヲ期日前ニ手ニシ以テ大ニ融通ヲ助クルコトヲ得銀行ノ割引ナルモノハ銀行營業上ニ於ケル主要ナル資金使用方法ニシテ又最モ利益アルモノナリ即チ銀行ハ割引當時ヨリ支拂期限ニ至ルマテノ手形金額ノ利息其他手数料ヲ引去リタル丈ノ現金ヲ割引請求人ニ與ヘ後日更ニ相當ノ利益ヲ得テ之ヲ賣却スルモノナリ此等割引ノ便利モ亦裏書ノ發達ニ伴ヒテ起リタル手形上ノ利益ナリ

三 手形ハ支拂ノ器具トシテ紙幣ノ用ヲ爲ス 是レ亦裏書ノ自由ナルヨリ生スル手形ノ利益ニシテ商人ハ金錢支拂ノ必要アルトキハ現金ヲ以テセス裏

書ニ依リ債權者ニ手形ヲ讓渡シ以テ支拂ニ替フルコトヲ得而シテ手形カ裏書ニ依リテ輾轉流通スレバ其度毎ニ支拂ノ器具トシテ利用セラレ得ルナリ

四 手形ハ貨幣ノ用ヲ省キ且之カ利用ヲ爲ス 前段ニ於テ述ヘタルカ如ク裏書讓渡ニ依リ支拂ノ器具ト爲ルヲ以テ大ニ貨幣ノ用ヲ節スルコトヲ得ルト同時ニ之カ爲メニ節セラレタル貨幣ハ他ニ利用セラレテ以テ益商取引ヲ活潑ナラシム若シ今日ノ商業界ニ於テ手形ナカリセハ今日ノ貨幣ノ額ニテハ以テ其十分ノ働ヲ爲スニ足ラス取引ハ之カ爲メニ甚シキ拘束ヲ受ケ商業ノ隆盛ヲ見ルコト能ハサルハ言ヲ俟タス前ニ示シタル英國及ヒ紐育ノ手形取引ノ實例ヲ見ハ思ヒ半ハニ過キン經濟學者ノ所謂信用ハ貨幣ノ用ヲ省クトハ即チ此等ノ作用ヲ謂フナリ蓋シ手形ハ信用證券ニシテ其流通ハ全ク信用ニ基クモノナレハナリ

又手形ハ一方ニ於テハ債權ヲ載セタル證券ナレトモ裏書ノ方法ニ依リ容易ニ多數當事者間ニ流通シ得ルヲ以テ遂ニ一方ニ於テハ本來ノ性質ヨリ更ニ一轉シテ商品ト爲リ以テ賣買ノ目的物ト爲ルニ至ル隨テ手形ハ一般ノ有價證券若

クハ貨幣ト同シク需用供給ノ原則ニ從ヒテ其價格ヲ變動ス其價格ヲ稱シテ爲替相場ト謂フ例ヘハ輸入ヲ主トシ若クハ輸入カ輸出ニ超過スル國ニ於テハ外國ニ向テ支拂ヲ爲スノ必要多キヲ以テ其支拂ヲ爲サントスル者ハ現金ヲ以テスルノ危險ト費用トヲ免レンカ爲メ爭フテ手形ヲ以テ之カ支拂ヲ爲サントスルハ勢ノ免レサル所ナレハ手形ノ需用大ニ増加シ隨テ手形ノ價格ハ其額面以上ノ價ヲ示スニ至ル此ノ如ク手形ノ價格カ其額面以上ニ上ルトキハ之ヲ稱シテ其國ニ取リテハ爲替ノ逆戻リト謂フ之ニ反シテ輸出ヲ主トシ若クハ輸出ノ輸入ニ超過スル國ニ於テハ手形ノ供給非常ニ希ニシテ手形ノ價格ハ額面以下ニ下ルコトアリ此ノ如キ時ハ手形ハ其國ニ取リテ順適ナリト稱ス爰ニ於テ手形ハ商品トシテハ其本來ノ作用ヲ超ヘ一國ノ外國貿易ノ消長如何ヲ窺ヒ知ルノ機關タルニ至ル

今ヤ本章ヲ終ルニ臨ミ一ノ例ヲ舉ケテ以テ手形ノ經濟上ニ於ケル利益ヲ示サントス例ヘハ横濱ノ商人甲ナル者一萬圓ノ資本ヲ以テ羽二重ヲ購入シ之ヲ佛國里昂ノ商人乙ナル者ニ賣却セリ隨テ乙ハ甲ニ對シテ一萬圓ノ債務ヲ負擔セ

ルヲ以テ一定ノ期日ニ之ヲ辨濟セサルヘカラス今若シ手形ナシトスレハ羽二重カ里昂ニ到着シタル後普通通二三箇月ヲ要ス乙ハ甲ナル者ニ宛テ一萬圓ノ現金ヲ送付セサルヘカラス然ルニ其金額ハ送付ノ途中數箇月ハ全ク商業上ニ用フルコトヲ得ス貨幣ハ其間働ヲ爲ササルノミナラス里昂ニ於テハ同額ノ流動資本ヲ減少スヘク猶ホ甲ハ荷物ノ發送ノ時ヨリ現金ノ到着スルマテ六箇月間位ハ全ク資本ヲ得ルノ途ヲ失ヒ其間ニ起リシ有利ナル商業上ノ機會ヲモ觀過セサルヘカラサルノ苦境ニ立ツヘシ然レトモ此等ノ不便ハ手形ノ作用ニ依リテ全ク除クコトヲ得即チ甲ハ羽二重ヲ發送シタル後乙宛ノ手形ヲ提出シ横濱正金銀行ニ到リ割引ノ方法ニ依リテ直チニ現金ヲ得以テ之ヲ取引ニ利用シ次同ノ羽二重ノ購入費ニ充ツルコトヲ得ルナリ此ノ如クセハ甲ハ資本ヲ得ルニ六箇月ヲ待ツノ必要ナク又一萬圓ノ資金カ數箇月間死物ト爲ルノ恐ナク而モ此巨額ノ流動資本ハ依然里昂ヲ去ルコトナカルヘシ是ニ由リテ之ヲ觀レハ甲ハ手形ノ作用ニ依リ一萬圓ノ資本ヲ運轉シテ能ク幾十萬圓ノ取引ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス横濱ト里昂トニ於ケル一般ノ金融ニ大ナル故障ヲ起スコ

第四章 手形義務ノ性質ニ關スル學說

以テ外務行政ハ内務行政ト相對立スルモノト誤解スヘカラス
天皇ハ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及ヒ諸般ノ條約ヲ締結ス之ヲ天皇ノ外交大權ト謂フ
外務大臣及ヒ公使ハ主トシテ此外外交大權ノ機關タリ然レトモ亦同時ニ之ニ伴
ヒテ外務行政ノ機關タリ即チ外務行政ノ機關トシテハ外務大臣ハ外國ニ於ケ
ル帝國商事ノ保護ニ關スル事務ヲ管理ス而シテ外國在留ノ臣民ノ保護ハ公使
ノ執ルヘキ事務ニ屬シ主トシテ國際の私交通ノ保護獎勵ヲ掌ル者ハ領事ナリ
其執ル所ノ職務ハ交通貿易及ヒ航海ノ保護獎勵在留日本臣民ノ保護及ヒ取締
若クハ其他ノ行政事務ヲ主タルモノトス之ヲ要スルニ外務行政トシテハ法理
上特別ノモノナシ國際の私交通ノ保護獎勵ヲ其實質トスル點ニ於テ内務行政
ト區別スルノミ

司法ハ行政ニ非ス玆ニ司法行政ト稱スルハ司法權ノ行使ヲ補助スル各種行政事務ノ謂ナリ即チ司法權ノ存在ニ關聯隨伴シテ存スル行政ニシテ司法其モノ

ニ非ス司法行政事務ハ司法大臣ノ掌ル所ナリ裁判所ノ設備及ヒ管轄區域ノ變更裁判所及ヒ之ニ附屬スル司法制度ノ監督檢察ノ事務裁判ノ執行等ヲ以テ其重ナルモノトス此等行政ノ細目ニ付テハ裁判所構成法刑法刑事訴訟法民事訴訟法監獄則等ノ規定ヲ參照セラルヘシ

第四部 財務行政

財務行政トハ國家ノ目的ヲ遂行スルニ必要ナル財産ノ管理及ヒ其收支ニ關スル國ノ行政ヲ謂フ嚴格ナル行政ノ觀念ニ從ヘバ此定義ハ正當ニ財務行政ト稱セラルヘキモノノ範圍ヲ超越セリ主トシテ私經濟的ノ作用ニ屬スル國有財産ノ管理、官行營業、此等ノ資源ヨリ生ズル收入、私法上ノ契約ニ屬スル貸借物品ノ買入金錢ノ支拂、此等ノモノハ皆權力ノ行動ニ非ス隨テ行政法ニ於テ論スル限ニ在ラス故ニ嚴格ニ財務行政ト稱セラルヘキモノハ國家收入ノ爲メニ臣民ニ對シテ效果及ヒス權力ノ行動ニ限局セラレサルヘカラス學者ノ所謂財政權ノ行動ニ限局セラレサルヘカラス之ヲ具體的ニ言ヘバ租稅ト手数料ノ徵收ト

ノミニ限局セラレサルヘカラス然レトモ一般ニ使用セラルル語ノ用例ニ從ヘバ財務行政トハ財産ノ管理收入支出ニ關スル國家ノ行動ヲ總括スルヲ常トス一般行政法學ノ教科書ニ於テモ此部門ノ下ニ總テ大藏省ノ所管ニ屬スル此等ノ事務ヲ論スルヲ常トシ又實際ノ事務ヲ執ル者ノ爲メニ之ヲ便利ト爲スカ故ニ予モ姑ク此廣キ意義ニ從ヒ財務行政ヲ論セント欲ス

財務行政ノ目的ハ國家ノ目的ノ遂行ニ必要ナル資財ヲ供給スルニ在ルカ故ニ國家ノ生活ナルモノアレハ茲ニ財務行政アリ然レトモ所謂自然經濟行ハレ公法私法ノ觀念未タ明確ナラス諸侯領主カ自己ノ利益ノ爲メニ自己ノ資産ヲ以テ政務ヲ行ヒタル時代ニ在リテハ其未タ大ニ重要ノ地位ヲ占ムルコトナカリキ此時代ニ於テハ現在國家收入ノ最大資源タル租稅カ國民ノ義務タルノ思想未タ起ラス或ハ土地ノ小作料、特權ノ免許料、御用金ノ如キ性質ヲ有スルモノト看做サレ或ハ租稅ハ君主ト人民トノ契約ニ基クトノ思想ヲ惹起シ或ハ租稅ハ保險料ニシテ君主ノ保護ヲ買取ル代價ナリト思惟スル者アルニ至レリ租稅カ國民ノ義務ナリトノ思想ハ極メテ近世ノ發達ニ屬ス近世貨幣經濟大ニ行ハル

ルニ至リ恰モ中央集權ノ國家カ起ルニ及ヒテハ常備軍ノ設立役人政治ノ發達ト共ニ國家政務ノ費用大ニ増加シ次テ人民ノ幸福繁榮ノ増進教化ノ事務モ亦國家ノ職分タルニ至リ是ニ於テカ國費益膨脹シ其之カ爲メニ收入ヲ得ルノ政務ハ總テノ國家ノ政務ニ關聯スル重要ナル政務ト爲レリ

國家財政ノ膨脹ト共ニ近來自治行政ノ發達ニ從ヒ自治團體ノ財政ハ殊ニ著シク増加セリ自治團體ノ財政ハ實務ニ當ルヘキ者ノ深ク考慮ヲ費スヘキ種種ノ問題ヲ有ス然レトモ其收支ノ關係ハ國家ノ財政ニ於ケルト大差アルニ非ス故ニ自治團體ノ財務行政トシテ之ヲ論述セス

曩ニ述ヘタル廣義ノ範圍ニ從ヒテ財務行政ヲ論スルカ故ニ財務行政ハ之ヲ二種ニ分類スルコトヲ得ヘシ其一ハ國家ノ國家タル性質ニ依ル權力行使タリ是レ純然タル行政ニシテ主トシテ租稅及ヒ手数料ノ徵收ナリ是レ性質上命令權ノ作用ニ屬セリ之ニ關スル爭ハ行政訴訟又ハ行政訴訟ノ保護ニ依リテ決セラ

ル其二ハ財産ノ管理國費ノ支辨國債ヲ起スコト等ノ如キ私法上ノ行爲ニ屬スルモノニシテ私人ト同シク私法ノ法理ニ從フ之ニ關スル訴訟ハ司法裁判所ノ

判決ヲ俟タサルヘカラス此意味ニ從ヘハ國家ハ財政ノ關係ニ付テ二種ノ法律關係ニ立ツモノナリト謂フコトヲ得公法上ノ財産權ノ主體及ヒ私法上ノ財産權ノ主體即チ是ナリ通常第二ノ方面ヨリ觀タル國家ヲ國庫ト謂フ

國家ノ財政ハ豫算ヲ基礎トシテ收支セラル豫算カ行政法上如何ナル意義ヲ有シ如何ナル效果ヲ有スルヤハ專說一定セス是レ大ニ研究ヲ要スヘキカ故ニ予ハ先ツ豫算ノ性質ヲ論シ次ニ國家ノ收入支出及ヒ財産管理ニ關スル法律關係ヲ述ヘント欲ス

第一章 豫算

豫算ノ内容ハ國家ノ收入支出ノ見積計算書ナリ政府ハ之ヲ標準トシテ收入シ又ハ支出スルモノナリ豫算ノ實質的意義ハ之ヲ以テ盡ク是レ猶ホ私人一家ノ豫算ニ於ケルト異ナルコトナシ然ルニ近世立憲政體ノ憲法ハ豫算ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ又ハ議會ノ協賛ヲ經ヘシト規定ス我憲法第六十四條モ亦國家ノ歳入歳出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシト規定セリ斯ル規定ア

ル爲メニ豫算ノ法律上ノ性質又ハ形式的意義及ヒ其法律上ノ地位ノ如何ハ深ク之ヲ研究スルノ必要アリ又學者ノ之ニ關スル意見モ極メテ區區タリ或學者ハ豫算ヲ以テ財務行政ヲ羈束スヘキ一ノ法規ナリトセリ然レトモ豫算カ實質上法規ヲ定ムルモノニ非サルコトハ言フ要セスシテ明カナリ是ニ於テ或學者ハ豫算ハ形式上法律ナリト論ス然レトモ豫算ハ憲法上形式ニ於テモ法律ニ非ス憲法第六十四條ニ「國家ノ歳入歳出ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシトアルモ法律ヲ以テスヘシト言ハス法律ハ法律トシテ公布セラルルニ至リテ法律タリ協賛ハ法律タルノ唯一ノ形式的要件ニ非ス又若シ豫算ヲ以テ法律ナリトセハ形式上元首ノ裁可ヲ必要ナル手續トセサルヘカラス然ルニ我憲法ノ明文ト精神トハ裁可ヲ要セサルコトヲ示シテ明カナリ即チ憲法第六十七條ニハ或一定ノ歳出ハ政府ノ同意ナクシテ議會之ヲ廢除シ又ハ削減スルコトヲ得ストアリ若シ豫算カ裁可ヲ必要ナルモノトセハ其上ニ如何ナル必要アリテ本條ノ同意ヲ必要トスルヤ何ノ實效ヲ期シテ議會ノ議決權ヲ制限シタルモノナリヤ本條ノ規定ノ存セルハ偶以テ裁可ハ豫算ノ要件ニ非サルコトヲ

知ルニ足ル又憲法第七十一條ニ「豫算不成立シ場合ハ政府ハ前年度ノ豫算ニ依リテ支出シ又ハ收入スルコトヲ規定セリ若シ裁可ヲ以テ豫算成立ノ要件ニシテシカ政府ハ議會ノ議定スル所カ其意ニ適セザリシ場合ニハ裁可ヲ爲サス隨テ豫算ヲ不成立ナラシメ以テ常ニ前年度ノ豫算ニ依ルナラン此ノ如キハ明カニ憲法ノ趣旨ニ反セリ是レ裁可ハ豫算成立ノ要件ニ非サルコトヲ示セルニ非スシテ何ヲヤ次ニ憲法第六十四條第二項ニ「豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾ヲ求ムルコトヲ要ス」規定モリ若シ豫算ハ法律ナリトセハ之ニ超過シタル支出ハ違法ノ處分ナリ苟モ違法ノ處分ハ承諾ニ依リテ適法ト爲ルモノニ非ス豫算外ノ支出カ承諾ニ依リテ完全ノモノト爲ルハ亦以テ豫算ノ法律ニ非サルコトヲ示セルモノナリ豫算ハ法律ニ非ス然レトモ一派ノ學者ノ唱フルカ如ク政府ニ財政ノ委任ヲ與フルモノニモ非ス此說ノ要旨ニ曰ク豫算ハ政府ニ財政ノ委任ヲ爲スモノナルカ故ニ豫算カ成立セサル場合ニハ其委任ナキカ爲メニ收入支出シ行政事務ヲ執行スルコトヲ得スト然レトモ歷史上豫算廢棄ノ爲メニ内閣ノ更迭シタル例

英國ニ於テスラモ絶ニテナシ又之アリトスルモ議會ノ反對ノ爲メニ内閣ノ更迭スルハ豫算ノ場合ニ限リタルコトニ非ス而シテ此ノ如キハ立憲君主國ニ於テハ明カニ君主ノ地位ニ反スルモノナリ若シ内閣ニ委任スルモノナリトセハ内閣カ更迭シタル場合ニハ更ニ豫算ノ議決ヲ爲ササルヘカラスト云フカ如キ不可思議ノ論決ニ達スヘシ學者カ此說ヲ駁シテ此ノ如キハ議會ニ國家ノ存立維持ヲ無視スル權限アリトスルモノニシテ國家ヲ危ウスル原則ハ國法上之アラサルナリト謂フハ蓋シ至言ト曰フヘシ

次ニ豫算ヲ以テ行政官廳ニ對スル訓令ナリトスル者アリ然レトモ議會ハ官廳ニ對シテ命令權ヲ有スルモノニ非ス故ニ此說ノ誤レルコトハ言ヲ要セスシテ明カナリ

又豫算ヲ以テ財政ノ計畫タルニ止マルトスル者アリ豫算ハ固ニ財政ノ計畫ナリト云フコトハ前述ノ如シ然レトモ議會ノ之ニ參與スル關係ニ於テハ單ニ財政計畫ナリトスルノミニテハ之ヲ以テ足レリト謂フコトヲ得ス此ノ如キ法律上ノ性質ヲ示シタルモノニ非ス若シ財政ノ計畫ヲ以テ法律上意味アル文字ト

リテハ此學說ハ文明ノ中心點ノ移轉ト共ニ漸ク佛蘭西ニ移リ佛國ニ於テ益々發達スルニ至レリ元來佛蘭西ニ於テハ當時諸侯ノ各地ニ割據スル者漸ク征服セラレ王權ノ益々盛ナルト同時ニ國內ノ交通、往來益々進歩シテ商業、工業等モ亦漸ク發達シタルカ故ニ恰モ「バルトルス」カ伊太利ノ屬地法ヲ救正セルカ如ク佛國當時ノ法學者モ亦從來ノ屬地法ノ主義ヲ矯正センコトヲ努ムルニ至レリ此時ニ當リ「デュムーラン」「ダルチヤントレー」「ギ、コキユ」ノ三大法學者出テ「バルトルス」氏ノ說ヲ繼承シ大ニ之ヲ進歩セシムルニ至レリ

此三法學者ノ中ニテ此學問ノ發達ニ大功アリシ者ハ「ダルチヤントレー」ナリ氏ノ考ニ依レハ元來法律ハ嚴正ニ屬地のノモノナリ總テ地方慣習ハ其地方内ニ於テハ最高ノ法律ナリトシ唯之カ例外トシテ人ノ一般ノ能力ニ關係スル法律ハ之ヲ屬人法ト爲シ其者ノ屬スル土地ノ法律ニ依ルヘキモノトセリ然レトモ斯ル例外的ノ法則ノ存スルカ爲メニハ其法則カ不動產ニ關係セサルコトヲ必要トシ且能力ニ關シテハ特定ノ能力ニ關スルニ非スシテ年齡、禁治產ノ如キ一般ノ能力制限ニ關スルコトヲ必要トスルナリ其他物ト人トニ同時ニ關係ア

ルモノ即チ法律行為ニ付テハ更ニ第三種ノ法則ヲ爲スヘキモノト爲シ之ヲ稱シテ混合法スタチユタ、ミツタスタト曰ヘリ爾來法則區別説ハ總テノ法則ヲ此三種ニ區別スルコトヲ研究スルヲ以テ目的トセリ蓋シテ此等ノ法則ハ第十七世紀ニ入リシ以來和蘭ノ文明カ益々發達スルト同時ニ有名ナル法學者出テ此學說ヲ益々發達セシムルニ至レリ其中最モ有名ナル者ハ「ブルグンヤニス」「ローデンプルヒ」「グエット」「父子ヒューベル」等ノ諸家ナリ就中ヒューベルハ此學問ニ貢獻スル所極メテ多ク現今ノ英米ノ學說及ヒ第十八世紀ノ獨逸ノ學說ヲ形作りタルモノナリ此等ノ和蘭ノ學說ハ第十六世紀ノ佛蘭西ノ學說ト大體ニ於テ異ナル所ナキモ更ニ其根本ヲ研究シ例外トシテ或場合ニ屬人法ヲ認メ外國法律ヲ適用スルハ素ト國際禮讓ヨリ出ヅルモノナリト説明セリ而シテ此時代ニ於テハ屬人法ハ事ロ例外ニシテ法律ハ皆屬地法ナリトノ原則ヲ認メタリ更ニ下リテ第十八世紀ニ至リ和蘭ノ文明カ漸ク衰ヘ佛蘭西ノ文化再ヒ盛ナルニ及ヒ此法則區別説ハ再ヒ佛蘭西ノ中心トスルニ至レリ即チ當時佛蘭西ニ於テハ「ブールノア」「ブッリエ」「フロランソ」三大法學者出テ益々法則區別説ヲ明カニセ

リ此第十八世紀ノ學說ハ重要ナル點ニ於テ從來ノ學說ニ一歩ヲ進メタルモノナリ即チ從來ハ屬地法ヲ原則トシ屬人法ヲ例外トセシニ此第十八世紀ノ學說ハ漸ク屬人法ノ範圍ヲ擴張シテ屬人法カ屬地法カ明カナラサル場合ニハ事ロ之ヲ屬人法ト決定スヘキモノトセリ斯ル學說カ第十八世紀ノ後半ニ於テ有名ナル「ボチエ」ニ傳ハリ「ボチエ」ハ更ニ之ヲ佛蘭西民法ノ編纂者ニ傳フルニ至リシナリ即チ第十八世紀ノ終ニ編纂セラレ第十九世紀ノ劈頭ニ發布セラレシ那破翁法典ハ其前加編第三條ニ於テ從來ノ學說ヲ結晶シテ左ノ三箇ノ原則ヲ掲ケタリ第一、社會ノ安寧又ハ公安ニ關スル法則ハ總テノ者ヲ支配スト規定シテ內國人タルト外國人タルトヲ問ハス等シク之ニ依ルヘキモノトシ第二ニ不動產ハ總テ佛蘭西ノ法律ニ依ルト爲シ其所有者カ內國人ナルト外國人ナルトヲ區別セスシテ等シク物ノ所在地法ニ依ルトノ法則ヲ掲ケ第三ニ人ノ身分及ヒ能力ハ佛蘭西人ヲ支配スト規定シ外國ニ在ル佛蘭西人ニ付テモ尙ホ佛蘭西ノ法律ヲ適用スヘキコトヲ明カニセリ隨テ之カ反對ニ外國人ニ付テハ裁判上ノ解釋ニ依リ其本國ノ法律ニ依ルヘキモノトシ茲ニ始メテ古來住所地法主義ノ屬

入法ヲ一變シテ本國法主義ノ屬人法ノ原則ヲ認ムルニ至リタリ蓋シ法典統一ノ偶然ノ結果ナリトス。佛蘭西ノ法典編纂セラルト同時ニ各地ノ法律ハ統一セラレ各地方各地ノ慣習法ノ異同ヲ説明スルノ必要ナキニ至リシヲ以テ古來研究セラレシ法則區別説ハ此法典ノ編纂ト共ニ其終ヲ告ケタリ隨テ第十四世紀以來第十八世紀ニ至ル五百年間研究セラレタル結果ハ佛蘭西民法第三條ニ其結果ヲ止メテ學問ノ研究界ヨリ跡ヲ潜ムルニ至リタルモノト謂フヘシ。尙ホ一言此學說ヲ批評セハ此學說カ外國法律ヲ適用スル根本ハ國際禮讓ニ在リトスルモノナレトモ斯ル學說ハ歐洲大陸ニ於テハ第十九世紀ノ半以來之ヲ唱フル者ナキニ至レリ蓋シ今日ニ於テハ別ニ法理上ノ必要アリテ外國法ヲ適用スヘキモノトシ其根本ニ於テ此學說ト相容レサルノミナラス此學說ハ其區別自體ニ大ナル缺點ヲ有シ一定ノ理論ニ依リテ之ヲ説明スルコト能ハサルナリ何トナレハ法律ヲ物人及ヒ行爲ニ關スルモノトシテ之ヲ三分スルカ如キコトハ大體ニ於テ爲シ得ヘキコトトスルモ各種ノ場合ニ付テハ到底爲シ得ヘカ

ラサルコトナリ隨テ此等ノ學說ハ實際問題ニ付テハ各人各箇各區別ノ標準ヲ異ニシ毫モ歸一スル所ナシ即チ其缺點ハ理論上區別ノ標準全ク缺乏セル點ニ存ス故ニ今日ノ國際私法學者ハ其結果ニ於テハ此等ノ學說ト殆ト相同シキ外觀ヲ有スルモ其根本ニ於テ大ニ異ナルコトヲ注意セサルヘカラス。

第二節 獨逸ノ學說

獨逸ニ於テハ第十七世紀以來前節ノ學說ヲ承繼セシ者少シトモサレトモ未タ此學問ノ發達ニ與リテ力アル者ナシ然ルニ第十九世紀ノ初以來獨逸ノ文學カ漸ク發達スルニ隨ヒ有名ナル法學者彬彬輩出シテ國際私法ノ根據ヲ研究スルニ至レリ千八百三十年前後ニ於テ「アイヒホルン」「チボー」「ギヨッセン」等出テテ國際私法ノ原則ハ人ノ本來ノ住所地法ヲ適用スルニ在リトシ既得權保護ノ說ヲ以テ之ヲ補充セリ此既得權保護説ハ一時學者ノ注目スル所ト爲リシカ未タ一ノ學說ヲ建設スルニ至ラスシテ止ミタリ何トナレハ其時代ニ有名ナル學者ウエヒタル出テテ既得權ノ保護ハ循環論法ニ陥ルコトヲ明カニセシヲ以テ

ナリ然ルニ千八百四十一年ニ至リ「シエフナ」出テテ國際私法ノ沿革論ヲ著シ古來ノ學說ヲ批評シテ其誤謬ヲ明カニシ更ニ自ラ法律關係發生地法說ヲ立テテ一切ノ法律關係ハ其關係ノ始メテ發生シタル地ノ法律ニ依リテ判定スヘキモノトセリ之ニ次キテ「ウエヒタル」ハ千八百四十一年ヨリ千八百四十二年ニ涉リテ有名ナル「私法」ノ抵觸論ヲ民法實用雜誌ニ掲ケ從來ノ學說ヲ一一般襲スルト同時ニ更ニ進ミテ所謂法廷地法說ヲ立テ左ノ二原則ヲ基礎トスヘキコトヲ主張スルニ至リシナリ即チ

第一 凡ソ訴訟ヲ判決スル裁判官ハ當然其國ノ法律ノミニ拘束セラルヘキモノナリ

第二 其國ノ法律ノ意義精神ヲ研究シテ若シ或法律關係ニ付テ外國法ノ規定ニ依ルヘキコトヲ認メタル場合ニ於テハ即チ外國法ヲ適用スヘキモノトシ若シ斯ル立法ノ精神カ明カナラサル場合ニ於テハ總テ內國法即チ法廷地法ヲ適用スヘキモノトス

此原則ノ一部分ハ正當ニシテ國際私法の法則ハ必ス其訴訟地國ノ法律ノ一部

分ラ成ササルヘカラスト云フ點ニ付テハ極メテ正當ナレトモ法律ノ意義精神ヲ解釋ラ裁判官ニ一任シ其解釋ノ標準ト爲ルヘキ法則即チ國際私法の法則ヲ與フルコトヲ努メサルハ一大缺點ト謂ハサルヘカラス故ニ此學說ハ唯國際私法ノ立法ノ原因ヲ説明スルヲミニシテ國際私法ノ法則自體ヲ説明スルコトヲ忘レタルモノト謂フヘシ隨テ「ウエヒタル」モ亦舊說ヲ打破スル點ニ於テ偉功アリシノミニシテ新學說ヲ建設スルノ功ニ至リテハ自ラ之ヲ收ムルコトヲ得ス更ニ「大法學者」サビニ「出シタル」待テリ特ニ「ウエヒタル」カ法律ノ精神不明ナルトキハ常ニ內國法ニ依ルヘシトシ內國法ニノミ重キヲ置タハ寧ロ國際私法ノ法則ヲ要スル根本ノ觀念ヲ無視スルモノト謂フヘキナリ隨テ此學說ハ今日ニ於テハ行ハレサルモノナリ

「サビニ」ハ千八百四十四年ヨリ千八百五十年ニ涉リ「現今羅馬法ノ系統ト題スル大著述」ヲ爲シ其第八卷ニ於テ法律抵觸問題ヲ論究スルニ當リ此問題ハ單ニ主權獨立ノ原則ノミニ依リ各國ハ自國ノ法律ヲミテ其國內ニ於テ施行スヘキモノナリト爲シ且何レノ國ニ於テモ自國ノ領地外ニ於テ其法律ノ施行セラル

ルコトヲ要求スルコトヲ得ストスルコトノミニ依リテ之ヲ説明スルニ足ラサルコトヲ喝破シ若シ此ノ如キ原則ヲ絕對ニ行フモノトセハ其結果ハ外國人ノ權利ヲ全ク否認スルニ至ルヘキコトヲ明カニシ更ニ進ミテ近世文明國ノ法律ニ於テハ内外人ノ私權平等主義ヲ認ムルニ至リタリト雖モ此平等主義ノミニ依リテ尙ホ此抵觸問題即チ國際私法の問題ノ全部ヲ説明スルコト能ハサルコトヲ明カニセリ自ラ說ヲ立テテ曰ク第一ニ一國ノ立法者カ法律抵觸問題ニ適用スヘキ原則ヲ定メタル場合ニ於テハ裁判官ハ固ヨリ之ニ從フヘキモノナレトモ現今ノ有様ニ於テハ何レノ國ニ於テモ斯ル立法上ノ規定甚ダ不完全ニシテ或ハ何等ノ規定ヲモ設ケサル國アルヲ以テ今日ハ諸國ニ立法の規定アリ斯ル明文ノ存セサル場合ニ於テハ立法者カ自國ノ法律ノミヲ適用スヘキモノト命シタルモノト解釋スヘキモノニ非ス事ヲ反對ノ解釋ヲ採リテ内外國法律ヲ同一視シ各國民間ノ交通往來ノ發達ヲ助ケル目的ニ適合スヘキ法律ヲ適用スヘキモノト解釋スヘキモノナリト云フニ在リ

ヒ内外人ノ保護ヲ平等ニシ獨リ權利享有ノ點ニ付テ平等ナルノミナラス更ニ司法上ノ平等即チ何レノ國ニ於テ裁判スルモ同一ノ法律關係ハ常ニ同一ノ判決ヲ受クルニ至ルヘキ司法上ノ同一ヲ要スル原則ヨリ由來スルモノナリ而シテ吾人ヲシテ現今斯ル思想ヲ起サシムル基礎ハ何レニ在リヤト云フニ近世各國民間ノ國際法上ノ共同團體ノ觀念カ根據ト爲ルモノニシテ各國民間ニ共通ノ法律思想共通ノ道德及ヒ實際上ノ共通便益ハ吾人ヲシテ斯ル觀念ヲ認メサルヲ得サラシムルニ至ルモノト考フルナリ隨テ内外法律間ノ抵觸問題ニ付テモ尙ホ國內ニ於ケル地方特別法ノ抵觸問題ト同シク此法律共同ノ原則ニ依リテ決定スヘキモノトセリ換言スレハ内外法律ノ抵觸問題ヲ解釋スルニ當リテハ内外法律ヲ同等同權トシ二者ノ間ニ優劣輕重ノ區別ヲ設ケシテ法律關係ノ固有ノ性質上ヨリ所屬スル法域ヲ確定シ其法律關係ノ屬スル土地ノ法律ヲ適用スヘキモノトセリ隨テ此原則ノ結果トシテ外國法ヲ適用スルハ從來ノ學者カ考フルカ如ク國際間ニ禮讓又ハ好意の讓歩ノ結果ニ非ス又裁判官ノ任意ノ判定ニ依ルヘキモノニ非スシテ法理上ノ必要ヨリシテ外國法ヲ適用スルモ

ノナレハ裁判官ノ職務トシテ外國法ヲ適用セサルヘカラスト云フニ在リ唯斯
ル場合ニ困難ナルコトハ如何ナル法律カ果シテ適用セラルヘキ法律ナリヤ否
ヤヲ確定スル點ニ在リトス此考ヨリシテ「サビニ」ハ法律關係ノ所屬地ヲ發見
スルコトヲ努メ總テノ法律關係ハ一定ノ場所ニ其所屬地即チ其本據ヲ有スル
モノトセリ又「サビニ」ハ「二箇ノ國ニ屬スル法律關係」ニ對シテハ其本據地
然レトモ「サビニ」ハ此内外法律ノ平等ニハ一大例外アルコトヲ認メ前ノ原則
ニ依リ適用セラルヘキ外國法ニテモ左ニ掲タル例外ニ當ルトキハ之ヲ適用ス
ルコトヲ得スト爲シ此場合ニハ內國法カ之ニ代リテ適用セラルヘキモノトセ
リ隨テ如何ナル法律ハ斯ル例外ニ屬スルヤト云フコトヲ明カニスルコトカ此
學問上ニ於ケル最大難問トスル所ナリト曰ヘリ而シテ「サビニ」ハ此例外ヲ分
テテ第一ニ強行的性質ヲ有スル法律第二ニ內國ニ於テ存在ヲ認メサル外國ノ
法律制度トセリ又「サビニ」ハ「二箇ノ國ニ屬スル法律關係」ニ對シテハ其本據地
先テ第一ノ例外ニ付テハ法律ニ強行法ト認容法トノ區別アルコトヲ認メ如何
ナル法律カ果シテ強行法ナルヤハ法律ノ精神ニ徴シテ之ヲ考フヘキモノニシ

テ若シ立法者ノ明言ナキ場合ニ於テハ強行的性質ヲ有スル法律ノ中ニ就キ更
ニ左ノ細別ヲ爲ササルヘカラストセリ即チ「サビニ」ハ「二箇ノ國ニ屬スル法律關係」
(甲) 或種類ノ強行法ハ唯權利者ノ利益ノ爲メニ一定ノ規定ニ依リテ司法行政
ヲ爲スヘキコトヲ明カニスルヲ以テ唯一ノ目的トスルモノアリ例ヘハ年齡
或ハ性等ノ爲メニ行爲能力ヲ制限スルカ如キ法律ハ即チ此種ノ強行法ニシ
テ斯ル法律ハ強行的性質ヲ有スレトモ例外トスヘキモノニ非ヌシテ法律共
同ノ原則ニ從ヒ外國人ニ付テハ外國法ニ依ルヲ以テ其目的ヲ達スルモノト
スルナリ

(乙) 此種類ニ屬スル強行的法律ハ道德上ノ理由ヨリシテ絕對的性質ヲ有スル
モノナリ例ヘハ一夫多妻ヲ禁止スルカ如キ法律ハ即チ之ニ屬スル法律ハ
一箇人ノ利益ヨリハ寧ロ公益ノ爲メニ存在スルモノナレハ之ト抵觸スル外
國法律ハ之ヲ適用スルコトヲ許サストスルナリ即チ此點ニ於テ法律共同ノ
原則ハ斯ル例外規定ニ一步ヲ讓ルヘキモノトセリ又「サビニ」ハ「二箇ノ國ニ屬スル法律關係」
又第二ノ例外タル內國ニ存在セサル法律制度トハ例ヘハ奴隸制度或ハ民法上

ノ死亡等ニシテ單ニ內國法律ニ存在セサルノミニ非スシテ其存在ヲ許ササル法律制度カ前ノ法律共同ノ原則ニ依リ適用セラルヘキ法律ト爲ルトキハ斯ル外國法律ハ之ヲ適用スルコトヲ得サルモノトセリ。然レモ此等ノ法律共同ノ次ニ「サビニー」ハ以上ノ原則ニ從ヒ法律關係ノ性質上適用セラルヘキ法律ヲ發見スルノ方法トシテ當事者ノ住所物ノ所在地法律行爲ヲ爲シタル土地及ヒ裁判所所在地ヲ基礎トシテ一切ノ法律關係ハ此等ノ土地ニ屬スヘキモノト考ヘ人ハ其住所ニ依リテ其土地ノ法律ニ服從スルモノナレハ人ノ身分能力ニ付テ法律關係ハ其當事者ノ住所地ニ其根據ヲ有スルモノトシテ茲ニ住所地法主義ヲ探レリ其他ノ法律關係ニ付テモ亦必ス一定ノ本據地ヲ有スルモノトシテ不動產ハ其所在地ニ本據ヲ有シ又法律行爲ニ付テハ債務者ノ住所地ニ其本據ヲ有スルモノトシ公益ニ關スルコト若クハ訴訟手續ニ關スル法律關係ハ裁判所所在地ニ其本據ヲ有スルモノトシ各其本據ノ法律ヲ適用スヘキモノトセリ此ノ如ク各種ノ法律關係カ其性質上ヨリ屬スル所ノ本據即チ法域ヲ研究スル以テ此學問ノ目的トスルナリ。

「サビニー」ハ以上ノ如ク總テノ法律關係ノ本據ヲ發見セント企テシカ法律關係ハ必スシモ常ニ一定ノ土地ノミニ關係スルニ非スシテ同時ニ幾多ノ土地ニ關係ヲ有スルコトヲ得ルモノナリ且法律關係自體ハ之ニ適用セラルヘキ法律カ定マリタル後ニ於テ始メテ法律關係タルコトヲ知リ得ヘキモノナレハ未ダ適用セラレ得ヘキ法律カ定マラサル前ニ法律關係ノ本據ヲ發見セントスルハ論理上ノ循環論法ニ陥リ到底其目的ヲ達スルコト能ハサル方法ナリ然レモ斯ル缺點ハ「サビニー」カ實際上ノ目的ヲ達シ得サリシト云フニ過キスシテ其原則自體ハ始メテ斯學ニ完全ナル法理上ノ基礎ヲ與ヘタルモノニシテ國際私法學ノ研究ハ内外法律ノ共同ト云フ思想ヨリ立論シテ其法律關係ノ性質上適用セラヘキ法律ノ適用區域ヲ定ムルニ在リト説明セシ一事ニ至リテハ實ニ近世國際私法學ノ始祖タル名譽ニ負カサルモノト謂フヘシ。然レモ此等ノ學說ハ獨逸法學者ハ勿論歐洲大陸ノ學者及ヒ英米ノ國際私法學者モ亦或ハ直接或ハ間接ニ皆「サビニー」ノ學說ヲ基礎トスルモノニシテ現今ノ佛蘭西、伊太利ノ學

說ト雖モ尙ホ「サビニ」ノ學說ヲ基礎トスルモノナリ。然レ今ハ獨逸ノ學說ニ於テ「サビニ」以來輩出シタル學者中最モ有名ナルモノハ「フオン、パール」ニシテ氏ハ過去三四十年ノ間獨逸ニ於ケル唯一ノ國際私法學者トシテ尊敬セラレ其著書ハ歐洲諸國ニ翻譯セラル氏ハ「サビニ」ノ學說ヲ祖述シテ其缺點ヲ補ハシカ爲メ所謂事物ノ性質說ヲ爲シ「サビニ」ノ原則ニ從ヒ事物ノ性質上即チ内外人交通ノ安全自由ヲ保護スル必要上ヨリ適用セラルヘキ法律ヲ發見シ以テ内外法律ノ適用區域ヲ定ムル原則ヲ説明スルヲ以テ此學問ノ目的トセリ隨テ現今ニ於テハ「パール」ノ學說ハ「サビニ」ノ原則ト相埃テ獨逸ニ於テハ勿論歐洲各國ニ一大影響ヲ與フルモノナリ。然レ獨逸ニ於テ近來有名ナル國際私法ヲ著ハシタル學者ハ「チーテルマン」教授ニシテ此人ハ國際私法ノ原則ヲ發見スルニ當リ國家ノ領地主權ト臣民主權ト相容レサル點ヨリ其研究ヲ始ムヘキモノトシ各國ノ主權ハ國際公法上ヨリ其支配スヘキ範圍ヲ定ムヘキモノトシ此國際公法上認メラレタル範圍内ニ於テ制定シタル一國ノ法律又ハ其法律ノ認メラタル權利ハ世界各國共ニ之ヲ認メ之

ヲ保護セサルヘカラサルモノトシ所謂國際私法ノ大原則ハ其基礎ヲ茲ニ定メサルヘカラストシ國際私法ヲ國家以上ノ國際私法ト國家以内ノ國際私法トノ二種ニ區別シ所謂國家以上ノ國際私法トハ國際私法の國際法ノ原則ニシテ國家ト國家トノ間ニ行ハルヘキモノトシ國家以内ノ國際私法トハ各國ノ立法者カ國際法上ノ原則ニ從ヒ自己ノ立法權内ニ於テ制定シタル國際私法の國內法ヲ謂フモノニシテ此後ノ國際私法ハ其國內ニ於テ效力ヲ有スルノミニシテ他國ニ於テ何等ノ效力ヲ有セサルモノトス而シテ現今ノ狀態ニ於テハ所謂國家以上ノ國際私法ハ尙ホ極メテ幼稚ナルモノニシテ之ヲ一定スルコトハ極メテ困難ナルモノナリ即チ之カ發達ハ將來國際公法ノ進歩ヲ俟テ始メテ望ムヘキモノニシテ國際私法ノ尙ホ幼稚ナル原因ハ其貴國際公法ノ未タ發達セサルニ在リトセリ此學說ハ斯新ナル所ナキニシテ非スト雖モ未タ一派ノ學說ヲ藏スニ足ラサルモノナリ。伊太利ノ學說

第三節 伊太利ノ學說

近世ノ佛蘭西伊太利學派ハ總テノ法律關係ハ一國ノ公益ニ反セサル限ハ總テ當事者ノ本國法ニ依ルヲ以テ原則トスヘキモノナリトノ學說ヲ爲セリ此學說ハ嘗テ千八百五十一年ニ伊太利ノ有名ナル公法家マンチニ「國際法ノ基礎トシテノ國粹」ト云フ題ニ付キ伊太利大學ニ於テ大演說ヲ爲シ本國法ノ屬人法說ヲ主唱セシ以來伊太利ノ「ユスベルソン」「パスカルヒオレ」「白耳義ノ「ローラン」」等ノ諸家益「此說ヲ唱道シ現今ニ於テハ佛蘭西伊太利白耳義等ノ學者ハ異口同音ニ皆此學說ヲ以テ法理ニ適スルモノト考フルニ至レリ現今此學說ノ中堅ヲ以テ目セラルル者ハ佛蘭西ノウエーヌ教授ナリ氏ハ最モ簡短明瞭ニ此原則ヲ左ノ如ク言ヒ表ハセリ

凡ソ法律ハ利益ニ關係スルトキハ常ニ人ノ便益ヲ目的トスルモノナリ隨テ唯其目的トスル人ノミヲ支配スルモノニシテ其人ニ付テハ何處ニ至ルモ其者ノ總テノ法律關係ヲ支配スヘキモノナリ唯所謂國際公安及ヒ場所ハ行爲ヲ支配ストノ原則竝ニ當事者ノ自由意思ヨリ由來スル制限ハ之カ例外ヲ成シ此場合ニハ屬人法ニ依ラサルモノトス

コトヲ得サルキト云フニ法律ノ精神ハ此ノ如キニ非サルモノト解セサルヘカラス何トナレハ訴ノ取下ニ付キ被告ノ承諾ヲ要スルニ至ルハ被告カ自ラ辯論ヲ爲シテ裁判所ニ對シ如何ナル裁判ヲ求ムルヤノ申立及ヒ理由ヲ表示シテ其權利ヲ取得シタル以後ニアルヲ以テノ故ナリ此理由ハ勿論控訴ノ場合ニ應用スヘキモノニシテ被控訴人カ辯論ヲ爲シ以テ右ノ權利ヲ取得スルマテハ控訴人ニ於テ被控訴人ノ承諾ヲ待タス隨意ニ控訴ヲ取下クルコトヲ得ルモノト解スルヲ正當トス之ニ反シテ右條文ニ本案ノ辯論トナキハ別ニ理由ノ存スルモノトス蓋シ控訴ノ理由ハ必スシモ本案即チ實體權上ノ理由ニ限ラス時ニハ訴訟法上ノ理由ニ基キ控訴ヲ提起スルコトアルヘキカ故ニ若シ此形式上ノ理由ニ基ク控訴申立アリテ被控訴人カ口頭辯論ニ於テ之ニ對スル答辯ヲ爲シタルトキハ實體上ノ理由ニ基ク控訴ノ口頭辯論ニ於テ被控訴人カ辯論ヲ爲シタル場合ト同シク最早其承諾ヲ得ルニ非サレハ控訴ノ取下ヲ許スヘカラサレハナリ然レトモ被控訴人カ單ニ控訴ノ要件ニ欠缺アリトシ之ヲ不適法ナリト爭フ場合ノ如キハ控訴ノ實質ニ付キ如何ナル判決ヲ求ムルヤノ辯論ヲ爲スモノ

ニ非サレハ未タ其裁判ヲ求ムル權利ヲ得タリト謂フヘカラス隨テ此場合ニ於テハ控訴人ハ被控訴人ノ承諾ヲ得シテ控訴ヲ取下クルコトヲ得ヘシ被控訴人カ口頭辯論ヲ開始シタル後ハ辯論終結ニ至ルニテ被控訴人ノ承諾ヲ得テ控訴ヲ取下クルコトヲ得ヘク又辯論終結後ハ絕對ニ控訴ヲ取下クルコトヲ得サルハ本條ノ裏面解釋及ヒ第一九八條ノ準用ニ依リテ明白ナリ

次ニ控訴取下ノ效果ニ付テモ亦特別ノ規定アリ即チ第三百九十九條第二項第四百六條是ナリ第三百九十九條第二項ニ依レハ控訴ノ取下ハ管ニ控訴提起ノ效力ヲ消滅セシメ其提起ナカリシト同一ノ狀態ニ復セシムルノミナラス取下者ヲシテ上訴權ヲ喪失セシムルノ結果ヲ生ズルモノトス故ニ一旦控訴ヲ取下タル者ハ縱令未タ控訴期間ノ満了セサルトキト雖モ再ヒ控訴ヲ提起スルコトヲ得ス但不適法ノ控訴ハ元來其效ナカルヘキモノナルヲ以テ之ヲ取下タルニ適法有效ニ提起シタル控訴ノ取下ト同一ノ效果ヲ生スヘキニ非ス故ニ不適法ノ控訴中控訴期間開始前ニ起シタルモノ及ヒ方式ニ違背シテ起シタルモノノ如キハ不適法トシテ一旦棄却セラレタル後ト雖モ控訴期間中ニ於テハ再ヒ

有效ニ提起スルヲ得ヘキモノニシテ控訴人カ自ラ進ンテ之ヲ取下ケタル場合ニ於テモ亦同シテ上訴權喪失ノ結果ヲ來スコトナク再ヒ有效ニ提起スルコトヲ得ルモノト謂ハサルヘカラス又適法ノ控訴ヲ取下ケタルニ因リテ上訴權ヲ喪失シタル者ト雖モ相手方ノ控訴ニ對シ附帶控訴ヲ爲スノ權アルハ第四百五條ノ規定スル所ノ如シ

右ノ外尙ホ控訴ノ取下ハ第四百六條ニ依レハ控訴期間經過後ニ被控訴人ノ爲シタル附帶控訴ヲ消滅セシムルノ效果ヲ生ス是レ亦控訴取下ノ特別ノ效果ト謂フヘキナリ又控訴ノ取下ハ控訴費用負擔ノ義務ヲ控訴人ニ負ハシムルハ第七十七條ノ規定スル所ニシテ第七十二條第二項ノ規定ト同一旨趣ニ出ツ

第三節 附帶控訴

附帶控訴トハ當事者ノ一方ノ控訴ニ附隨シテ其相手方ヨリ提起スル控訴ヲ謂フ第一審ノ終局判決ニ對シテハ各當事者ハ相手方ニ於テ控訴ヲ爲シタルト否トニ拘ハラス獨立ノ控訴ヲ爲スコトヲ得ルハ勿論ナレドモ既に相手方カ控訴

ヲ提起シタルトキハ必スシモ獨立ノ控訴ヲ爲スコトヲ要セス附帶控訴ノ方法ニ依リテモ亦不服ヲ申立ツルコトヲ得而シテ獨立ノ控訴ハ控訴期間經過後ニ於テ提起スルコトヲ得タルノミナラス訴訟費用ノミニ付テノ判決ニ對シテハ亦之ヲ許ササルハ前ニ述ヘタル所ノ如シ然レトモ附帶控訴ハ經令控訴期間經過後ト雖モ口頭辯論終結ニ至ラサル間ハ之ヲ提起スルコトヲ得ヘク又訴訟費用ノミニ付テノ裁判ニ對シテモ之ヲ提起スルコトヲ得ヘク尙ホ又一且自己ノ控訴ヲ取下ケタルトキト雖モ之ヲ提起スルコトヲ得ヘキモノトス(第四〇五條第一項)法文ニハ「自己ノ控訴ヲ拋棄シタルトキ云云」トアリテ控訴ノ取下トナキノミナラス控訴ノ取下ハ上訴權ノ喪失ヲ來ス旨ノ規定アルヲ以テ或ハ控訴ヲ取下ケタルトキハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得サルヤノ疑ナキニ非サレトモ元來我民事訴訟法ハ控訴ノ拋棄ナルモノニ付キ何等特別ノ規定ヲ設ケス而シテ控訴ノ取下ハ即チ民事訴訟法上ニ於ケル控訴ノ拋棄ト謂ハサルヘカラス故ニ控訴ノ取下後ト雖モ附帶控訴ヲ許スノ旨趣ナリト解スルヲ正當トス隨テ控訴ノ取下ハ上訴權ノ喪失ヲ來ス旨ノ規定ハ單ニ其取下ヲ爲シタル者ニ獨立ノ上訴

ヲ許ササルノ旨趣ニ歸スルモノトス(第四〇六條)右ノ如ク附帶控訴ハ獨立ノ控訴ヲ許ササルトキト雖モ之ヲ許スコトアレトモ裁判ノ性質上控訴ニ依リテ不服申立ヲ爲スコトヲ得サルモノニ對シテハ附帶控訴ヲ提起スルコト能ハサルハ勿論ナリ故ニ例ヘハ第一審ニ於テ被告カ關府シ原告ノ申立ニ因リテ原告ノ辯論ノミニ基キ判決ヲ爲シタルモ其判決カ原告請求ノ一部ヲ理由ナシトシテ棄却シタルカ爲メ原告カ之ニ對シテ控訴ヲ申立タル場合ニ被告ハ他ノ敗訴ノ判決ノ部分ニ對シテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ス何トナレハ此部分ノ判決ハ單ニ故障ヲ以テノミ不服ヲ申立ツヘキ關席判決ナレハナリ唯第二百六十三條ノ新關席判決及ヒ第一百七十七條第二項ノ原狀回復申立人ニ對スル關席判決ニ對シテハ懈怠ナカリシコトヲ理由トスルトキニ限リ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘキナリ(第四〇五條第二項)附帶控訴ハ獨立ノ控訴ト同シテ相手方ノ控訴ノ不服申立ノ範圍内ニ限ラレスシテ其他ノ判決ノ部分ニ對シテモ之ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ控訴人ハ第一審判決ノ一部ニ對シテノミ不服アリテ其一部分ノ變更ヲ求メタル場合ト雖モ被

控訴人ハ附帶控訴ニ依リ判決ノ他ノ部分ノ變更ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナリ何トナレハ元來第一審判決ニ對スル不服ノ程度ヲ定ムルハ控訴ノ要件ニ非スシテ苟モ其判決ニ對シ控訴ヲ爲シタル以上ハ不服ノ程度ノ全部ニ亘ルト一分ニ限ルトヲ問ハス其事件全體カ控訴申立ノ效力ニ因リテ第二審裁判所ニ繫屬スルニ至ルモノナルヲ以テ縱令控訴狀ニ不服ノ程度ヲ掲クルモ是レ唯準備事項ニ過キサルハ前ニ述ヘタル如クニシテ控訴人ハ一旦訴狀ニ掲ケタル第一審判決ニ對スル不服ノ程度ヲ變更シテ口頭辯論ニ於テ更ニ其他ノ判決ノ部分ニ對シ不服ヲ申立テ其變更ヲ求ムルコトヲ得ヘク又口頭辯論ノ終結ニ至ルマテハ一旦申立テタル不服ノ程度ヲ變更擴張スルコトヲ得ヘキカ故ニ被控訴人ノ附帶控訴ニ於ケルモ亦同シテ決シテ控訴人ノ不服ノ程度内ニ制限セララルモノニ非ス又若シ之ニ制限セララルモノトセハ通常附帶控訴ハ何等ノ實益ナキニ至ルヘシ何トナレハ控訴人ニ不服アル點ハ即チ被控訴人ニ利益ナル點ナルヘケレハナリ

附帶控訴ハ性質上主タル控訴ニ附隨スルモノタル結果トシテ左ノ場合ニハ其

效力ヲ失フモノトス(第四〇六條イ)

第一審主タル控訴カ判決ヲ以テ不適法トシテ棄却セラレタルトキ即チ前ニ述ヘタル控訴ノ要件ヲ缺クカ爲メニ許スヘカラサルモノトシテ棄却セラレタルトキハ控訴ハ元來成立スヘカラサルモノナルヲ以テ之ニ附隨スルコト能ハサレハナリ然レトモ控訴カ實體上理由ナシトシテ棄却セララル場合ニ於テハ控訴トシテ完全ニ成立セル場合ナルヲ以テ附帶控訴ハ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス

第二 主タル控訴ノ取下アリタルトキ有效ナル控訴ノ取下アリタルトキハ恰モ控訴ナカリシト同一ノ狀態ニ復スルヲ以テ附帶控訴ハ其效力ヲ失フハ當然ナリ故ニ被控訴人ノ承諾ヲ得テ控訴ヲ取下ヘキ場合ニ於テ被控訴人之承諾シタルトキハ即チ被控訴人ハ自己ノ附帶控訴ヲ拋棄シタルモノト謂フヘキナリ

右ノ例外トシテ被控訴人カ其控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキハ爾後主タル控訴カ不適法トシテ棄却セラレ若クハ有效ニ取下ケラレタルトキト雖モ

其附帶控訴ハ獨立ノ控訴ト看做サレ其效力ヲ失ハサルモノトス隨テ此場合ニハ總テ之ヲ獨立ノ控訴ニ關スル規定ヲ適用スルハ即チ初メ控訴人ハ控訴ヲ不適法トシテ棄却セラレ若クハ之ヲ取下ケタルニ拘ハラス更ニ被控訴人トシテ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ルニ至ル又右ノ場合ニ於テ元來獨立ノ控訴ヲ爲スコト能ハサルトキ例ヘハ費用ノ點ノミヲ判決ニ付キ控訴期間内ニ附帶控訴ヲ爲シタルトキ又ハ一タヒ獨立ノ控訴ヲ起シ之ヲ取下ケタル後ナルトキハ獨立ノ控訴トシテ不適法ノモノナレハ當然棄却セラルヘキモノトスルハ其提起ノ時期カ控訴期間内ニ在ルヤ否ヤニ依リテ決スヘキヲ以テ茲ニ重要ナル問題トシテ如何ナル方式ニ依リ如何ナル時期ニ於テ附帶控訴ハ有效ニ成立スルモノナルヤヲ研究セサルヘカラス今民事訴訟法ノ規定ヲ按ズルニ附帶控訴ヲ提起スル方式ニ付テハ何等ノ規定スル所ナシ故ニ口頭辯論主義ノ結果トシテ附帶控訴ハ之ヲ口頭辯論ニ於テ提起スヘキモノト謂ハサルベカラズ而シテ其申立ハ第二百二十二條ニ從ヒ書面ニ基キテ爲スコトヲ要スルハ疑ナキ所ナリ故ニ通常ノ場合ニ

於テハ附帶控訴ヲ答辯書其他ノ準備書面ニ記載シテ之ヲ控訴裁判所ニ提出スルモ其記載ハ準備事項ニ外ナラスシテ未タ之ヲ以テ附帶控訴ノ提起ト謂フコトヲ得ス然レトモ茲ニ所謂控訴期間内ニ爲シタル附帶控訴トハ控訴期間内ニ口頭辯論ニ於テ提起シタル附帶控訴ノミニ限ラス控訴期間内ニ附帶控訴申立ノ書面ヲ差出シタル場合モ包含スルモノト解スルヲ可トス何トナレハ右規定ノ結果トシテ此控訴期間内ニ差出シタル附帶控訴申立ノ書面ハ之ヲ獨立ノ控訴狀ト看做スヘケレハナリ要スルニ控訴期間内ニ附帶控訴申立ノ書面ヲ提出シタルトキハ口頭辯論ニ於テ其申立ヲ爲ス際ハ既ニ控訴期間經過後ニ係ルモ主タル控訴カ不適法トシテ棄却セラレ又ハ取下ケラレタルトキハ其附帶控訴ハ獨立ノ控訴ト看做サルヘキモノト信スルハ其理ハ明白ナリ故ニ茲ニ第一次ニ何時マテニ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ此點ニ付テモ亦明文ナク控訴期間經過後ニ於テモ之ヲ提起スルモノトヲ得ルハ前説明セル規定ニ依リテ明カナルヲ以テ控訴ノ口頭辯論終結ニ至ルマデ提起スルモノトヲ得ト謂ハサルヘカラス故ニ控訴審ニ於テ一分ノ判決ヲ爲シタルトキハ爾後其部分ニ關スル第一審

判決ニ對シテハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヌシテ他ノ部分ニ關シテハ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヘシ一旦控訴審ノ判決アリテ上告ノ結果上告審ヨリ事件ヲ控訴審ニ差戻シタルトキハ尙ホ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ルヤ否ヤ一説ニ依レハ此場合ニ於ケル控訴審ノ辯論ハ其實質上告審ニ屬スル辯論ニシテ便宜上控訴審ニ於テスルニ過キサレハ最早附帶控訴ヲ爲スコトヲ得スト曰ヒ他ノ一説ニ依レハ此場合ハ訴訟事件ノ差戻ニ依リテ控訴審ノ程度ニ回復シ即チ其訴訟ハ控訴審ニ繫屬スルニ至リタルモノナレハ勿論附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ト曰ヘリ予ハ第二説ヲ正當ナリト信ス

附帶控訴ニ對シテハ更ニ附帶控訴ヲ爲スコトヲ得ヌ又其必要ナシ何トナレハ控訴人ハ控訴ノ辯論終結ニ至ルマテ隨意ニ不服ノ程度ヲ變更スルコトヲ得レハナリ

第四節 控訴ノ效力

控訴ノ提起ハ當然ニノ效力ヲ生ス停止ノ效力及ヒ移審ノ效力是ナリ

第一 停止ノ效力 停止ノ效力トハ即チ第一審判決ノ確定ヲ停止スルノ效力ヲ謂フ凡ソ控訴ヲ爲スコトヲ得ル第一審判決ハ控訴期間ノ満了ニ因リテ確定スヘキモ若シ當事者ノ一方カ之ニ對シ控訴期間内ニ控訴ヲ提起シタルトキハ其判決ノ確定ハ爲メニ遮斷セラルルコトハ第四百九十八條ノ規定ニ依リテ明カナリ故ニ此場合ニ於テハ第一審判決ハ控訴ノ取下アルカ又ハ控訴棄却ノ控訴審ノ判決ヲ確定スルニ至ルマテハ確定セサルモノトス而シテ其停止ノ效力ハ常ニ第一審判決ノ全部ニ及ホスモノニシテ控訴人カ其全部ニ對シ不服ノ申立ヲ爲シタルト其一分ニ對シテ不服ノ申立ヲ爲シタルト間ハサレナリ何トナレハ不服ノ程度ヲ定ムルハ控訴ノ要件ニ非スシテ控訴人ハ辯論終結ニ至ルマテハ隨意ニ之ヲ變更スルコトヲ得ヘク相手方モ亦同シク辯論ノ終結ニ至ルマテ附帶控訴ヲ以テ第一審判決ノ全部若クハ一分ニ對シ不服ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘケレハナリ

右ノ如ク控訴ハ控訴セラレタル第一審判決ノ確定ヲ停止スルノ效力アル結果トシテ該判決ノ確定ニ基キテ之ヲ利用スル權利ノ發生ヲ停止スルハ自ラ明カ

ナリ但第二百七條ノ妨訴ノ抗辯ヲ棄却スル判決第二百二十八條ノ請求ノ原因ヲ正當トスル判決ノ如キハ上訴ニ關シテ終局判決ト看做サルヲ以テ裁判所ニ於テハ通常其判決確定ニ至ルマテ爾後ノ手續即チ本案ノ辯論及ヒ裁判若クハ數額ニ付テノ辯論及ヒ裁判ヲ爲スコトヲ中止スヘキモノニシテ若シ此判決ニ對シ控訴ヲ提起シタルトキハ控訴棄却ノ判決確定スルニ至ルマテ爾後ノ手續ヲ開始スルヲ得サルヘキモ法律ハ便宜上原告ノ申立アリテ且裁判所力適當ト認メタルトキハ右判決ニ引續キ直チニ爾後ノ手續ヲ行フコトヲ許セリ即チ原告ハ該判決ヲ利用シテ爾後ノ手續ノ進行ヲ申立ツルコトヲ得然レトモ此場合ニ於ケル爾後ノ手續ハ前判決ノ確定ヲ條件トシテ假ニ爲スモノナレハ若シ前判決カ控訴ノ結果廢棄セラレタルトキハ爾後ノ手續ハ自然無効ニ歸スヘキモノナリ又終局判決ヲ執行スル權利ニ付テモ右ト同シク控訴ノ提起ニ因リテ停止セララルモノナレトモ假執行ノ宣言アル判決ハ確定ニ至ラサルモ執行スルコトヲ得ルヲ以テ之ニ對スル控訴ノ提起ハ當然其執行力ヲ停止スヘキモノニ非ス唯此場合ニ當事者ハ第五百十二條第五百條ノ規定ニ從ヒ執行ノ停止ヲ

求ムルコトヲ得ルニ過キス而シテ假執行モ亦實際ノ便宜ニ基キ法律ノ定メタル手續ニ外ナラスシテ條件附ノ性質ヲ帶フルモノナリ故ニ控訴ノ結果本案ノ判決又ハ假執行ノ宣言カ廢棄變更セラレタルトキハ廢棄變更ノ程度ニ於テ其效力ヲ失フモノトス(第五一〇條)

第二 移審ノ效力 移審ノ效力トハ第一審判決ヲ經タル訴訟事件ヲ控訴審ニ繫屬セシムル效力ヲ謂フ凡ソ適法ナル控訴ノ提起ハ第一審判決ヲ經タル訴訟事件ノ全體ニ付キ移審ノ效力ヲ生スルモノナリ故ニ縱令控訴人カ第一審判決ノ一部ニ對シテノミ不服アリトシ一旦其不服ノ程度ヲ定メタルトキト雖モ苟モ適法ナル控訴申立ヲ爲シタル以上ハ他ノ不服ヲ申立テテリシ部分ニ付テモ亦移審ノ效力ヲ生シテ控訴審ニ繫屬スルニ至リ此部分ノミ分立シテ確定スヘキモノニ非ス故ニ當事者カ此部分ニ對シ更ニ不服ヲ申立テントスルキハ別ニ獨立ノ控訴ヲ提起スルコトヲ要セス口頭辯論ノ終結ニ至ルマテニ控訴人ハ不服ノ程度ヲ擴張變更シ又被控訴人ハ附帶控訴ヲ爲シテ此部分ニ對シ不服ヲ申立ツルコトヲ得ヘシ茲ニ注意スヘキハ控訴ノ提起ニ因リ控訴審ニ繫屬スルニ

ヲ第一審裁判所ニ差戻スノ判決ヲ爲シ第一審裁判所ヲシテ更ニ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシムヘキモノトス(第四二二條) 故テ其裁判所ニ於テ其裁判ヲ爲スルハ(一)不服ヲ申立テラレタル判決カ關聯判決ナルトキハ故テ許ササル關聯判決ニ對シテハ懈怠ナカリコトヲ理由トスルトキニ限リ控訴ヲ爲スコトヲ得ルハ先ニ説明シタル第三百九十八條ニ規定スル所ノ如シ而シテ此規定ニ從ヒ申立タル控訴カ不適法ナルカ又ハ其理由ナキトキハ控訴裁判所ハ控訴棄却ノ判決ヲ爲スヘク此場合ハ他ニ何等ノ裁判ヲ要セス其訴訟事件ハ全然終結スルヲ以テ固ヨリ第一審裁判所ニ之ヲ差戻スコトヲ得タルモノ之ニ反シテ控訴ヲ理由アリト認メタルトキ即チ控訴人カ懈怠ナクシテ關聯判決ヲ受ケタルモノト認メタルトキハ第一審判決ヲ廢棄シ其事件ヲ第一審裁判所ニ差戻スノ判決ヲ爲シ以テ本案ニ付テ辯論及ヒ裁判ヲ爲サシメタルヘカラス何トナレハ此場合ハ本案ニ付キ辯論及ヒ裁判ヲ爲スノ必要アリ而シテ未タ本案ニ付テハ第一審裁判所ニ於テ當事者雙方ノ完全ナル辯論ヲ經テ判決ヲ爲シタルニ非ザレハナリ是レ所謂事件ニ付キ辯論ヲ必要トスル場合ナリ

如キ財産關係ヲ内容トセスシテ却テ親族關係ヲ内容トスル權利ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ス夫又ハ女戸主カ破産者タル配偶者ノ財産ノ使用及ヒ收益ヲ爲スノ權利及ヒ親權ヲ行フ父又ハ母カ破産者タル未成年ノ子ノ財産ヲ管理スルノ權利(民法第七九條第八四條第八九〇條)ハ破産者ノ財産ニ關係ヲ有スルモノナリト雖モ親族關係ヲ内容トスル權利ナルヲ以テ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ス然レトモ親族關係ニ基ク養料請求權(民法第七四七條第七九〇條)ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ヘシ蓋シ斯ル請求權ハ法律ノ規定ニ因リテ發生シタル財産債權(エンデマ)民ハ親族上ノ權利ナリト主張シ又民法理由書ニ從ヘハ特種ノ權利ニシテ債權ニ非サルモノノ如シ(ニシテ之ヲ他ノ財産上ノ請求權ヨリ劣等視スルノ理ナクレハナリ「ローレル」ツキルモノスキ「民等ノ如ク親族關係ニ基ク養料請求權ハ他人ヲ養フニ足ル實力ヲ有スル親族ノ負フヘキ財産上ノ負擔ニシテ債權ニ非スト」獨逸普通法ノ原則ヲ根據トシテ反對ニ論結スルハ我破産法ノ解釋トシテ其當ヲ得タルモノニ非ナルヘシ(2)債務者ノ財産ヲ以テ履行スヘキ給付ヲ目的トセスシテ單ニ債

務者ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トスル請求權ハ破産債權トシテ之ヲ主張スルヲ得、何トナレハ債務者ハ其破産宣告ニ依リ破産財團ニ屬スル財産ノ管理及ヒ處分ノ權能ヲ喪失スルモ勞働ノ自由ヲ喪失セザルヲ以テ債權者ハ債務者ノ破産宣告後有效ニ該請求權ノ履行ヲ請求スルコトヲ得ヘキヲ以テナリ故ニ通常ノ手細工ノ如キ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ爲サシムルコトヲ得ヘキ作爲ヲ目的トスル債權醫師ノ診斷敎師ノ敎授學者ノ著作畫工ノ描畫等ノ如キ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ爲サシムルコトヲ得サル作爲ヲ目的トスル債權及ヒ債務者ノミカ履行スルコトヲ得ヘキ不作爲ヲ目的トスル債權ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得、然レトモ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ爲サシムルコトヲ得ヘキ作爲ヲ目的トスル債權ニ關シテハ債權者ハ民事訴訟法第七百三十三條民法施行法第五十四條ノ規定ニ從ヒ強制執行ノ方法トシテ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ該作爲ヲ爲サシムルコトヲ得ルヲ以テ該債權ハ同時ニ斯ル費用ノ支拂ヲ目的トスル債權ト謂フコトヲ得ヘシ故ニ債權者カ民事訴訟法第七百三十三條第二項ニ從ヒ債權ノ目的タル作爲ヲ爲スニ因リテ生スヘキ費用ヲ

豫メ債務者ニ支拂ハシムヘキ旨ノ決定ヲ得タル場合ニ於テハ債權者ハ其決定アリタル時期カ債務者ノ破産宣告ヲ受ケル以前ナルト其以後ナルトニ拘ハラズ單純ナル破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得、未タ斯ル決定ヲ得サル場合ニ於テハ債權者ハ將來ノ請求權タル破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ヘシ破産法案第二六四條第五號獨逸ニ於テハ「ボツセルト」民ハ債權者カ債務者ノ破産宣告ヲ受ケル以前ニ於テ獨逸民事訴訟法第八百八十七條民事訴訟法第七百三十三條第二項ニ從ヒ債務ノ目的タル行爲ヲ爲スニ因リ生スヘキ費用ヲ豫メ債務者ニ支拂ハシムヘキ旨ノ決定ヲ得タル場合ニ於テハ債權者ハ此費用ヲ支拂ハシムル債權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ヘシト雖モ獨逸民事訴訟法第八百八十七條ノ適用ニ依リ債權關係ノ變更アルモノナリトノ理由ヲ以テ債權者カ債務者ノ破産宣告ヲ受ケタル以後ニ於テ斯ル決定ヲ得タル場合ニ於テハ債權者ハ該費用ヲ支拂ハシムル債權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ス、此場合ニ於テハ破産宣告ノ當時ニハ唯破産債權ニ非サル作爲ヲ目的トスル債權ノ存スルノミニシテ破産宣告後特別ナル訴訟上ノ行爲ニ基キ破産債權タルニ

適當ナル財産上ノ請求權カ發生シタルモノナリトノ理由ヲ以テ主張シタリ然レトモ這ハフツチング「ウキルモースキ」〔此二氏ハ債務者ハ破産宣告ノ當時未タ債務ノ目的タル行為ヲ爲サシムルニ因リテ生スヘキ費用ヲ債務者ニ支拂ハシムヘキ旨ノ決定ナキ場合ニ於テハ債權者ハ條件附破産債權トシテ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘキ旨ヲ主張シ〕及ヒイエダハ氏等ノ贊成セサル所ニシテ又我破産法ノ解釋トシテ予輩ノ贊成セサル所ナリ何トナレハ債權ノ性質ハ訴訟上ノ行為ニ依リ變更スルモノニ非サルヲ以テ第三者ヲシテ債務者ニ代リテ爲サシムルコトヲ得ヘキ作爲ヲ目的トスル債權ヲ有スル者ハ縱令債務者カ破産宣告ヲ受ケタル後民事訴訟法第七百三十三條第二項ニ從ヒ費用支拂ノ決定ヲ得タルトキト雖モ費用支拂ノ債權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得サルノ理ナケレハナリ

(B) 執行スルコトヲ得ヘキ權利 破産債權者タルニハ執行スルヲ得ヘキコト即チ通常ノ裁判所其他ノ官廳ニ於テ攻撃的ニ主張シ且國家ノ機關ニ依リテ強制的ニ取立ツルコトヲ得ヘキ權利タルヲ必要トス何トナレハ破産手續ハ一ノ

強制執行ニシテ又強制執行ハ唯強制スルコトヲ得ヘキ債權關係ニ於テ存スルノミナレハナリ故ニ訴ヲ以テ請求スルコトヲ得ヘキ權利及ヒ行政官廳ニ於テ取立ツヘキ租税ニ關スル權利ノ如キハ破産債權タルコトヲ得ルト雖モ自然債務ニ對スル權利殊ニ時效ヲ經タル債權不法ノ原因ノ爲メニ成立シタル權利例ヘハ賭博ノ勝利者カ有スル權利及ヒ契約上強制シテ取立ツヘキ權利ヲ拋棄シタル債權者ノ權利ハ國家ノ機關ニ依リ強制的ニ取立ツルコト能ハサル權利ニ屬スルヲ以テ破産債權タルコトヲ得ス(民法第七〇五條第七〇八條但仲裁契約ノ成立ハ其之ニ依リテ確定スヘキ債權ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ妨ケス何トナレハ債權ハ其之ニ關スル仲裁契約ノ成立ニ依リ強制シテ取立ツルコト能ハサルモノト爲ラサレハナリ

(C) 破産者ニ對スル權利 破産債權ハ債務者其人ニ對スル權利タルコトヲ要ス換言スレハ債務者カ其債權者ニ對シ對人責任ヲ負フコトヲ要ス元來責任(Haftung)ニ對人責任(Personalhaftung)及ヒ對物責任(Sachftung)ノ二者アリ對人責任ハ債權者カ債務者ニ對シ其總財産ニ付キ満足ヲ求ムル權利ヲ有スル時ニ

於テ現存シ又對物責任ハ債權者カ或財產ニ付キ其主體ノ債務者ナルト否トモ拘ハラス満足ヲ求ムル權利ヲ有スル時ニ於テ現存ス後者ハ別除權ノ原因ト爲ルコトアルモ破産債權ノ原因ト爲ルコトナシ故ニ債務者ノ總財產ニ付キ満足ヲ求ムル權利ニシテ物權關係ニ屬セサルモノニ非サレハ破産債權ト爲ルコトナシ(破産法案破産者ノ債權者)隨テ一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財產上ニ行ハルル權利ナリト雖モ民法第三〇六條物權的關係ニ屬スルモノナルヲ以テ破産債權ト爲ラス取戻權(商法第一〇一五條)ハ特定ノ財產ヲ破産財團ニ屬セサルモノトシテ取戻スコトヲ目的トスル權利ナルヲ以テ破産債權ト爲ラス別除權ハ破産財團ニ屬スル特定ノ財產上ニ優先的満足ヲ求ムル權利ナルヲ以テ破産債權ト爲ラス(商法第九九七條)然レトモ破産者カ其債務ノ爲メニ破産財團ニ屬スル特定ノ財產上ニ物上擔保權ヲ設定シタル場合ニ於テハ該擔保權ヲ有スル債權者ハ別除權者タルト同時ニ破産者ニ對スル債權ヲ有スル者即チ破産債權者タリ蓋シ別除權ニ依リ擔保セラルヘキ債權ハ債務者ノ總財產上ニ満足ヲ求ムルコトヲ得ヘキモノナレハナリ故ニ我現行法及セ獨逸破産法ニ於テハ斯ル

權利者ハ其有スル別除權ヲ主張スルト同時ニ其有スル債權ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ヘシ唯二重ノ辨濟ヲ受クルコトハ法律ノ許ササル所ナルヲ以テ別除權ノ行使ニ依リ満足ヲ受クルコト能ハサリシ金額又ハ之ヲ拋棄シタル部分ニ付キ配當ヲ受クルニ過キサルノミ(別除權ノ說明參照)但破産法案ニ於テハ專ラ手續上ノ煩雜ヲ避クル目的ヲ以テ別除權ヲ有スル債權者ハ其別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ非サレハ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得サルモノト定メ別除權ヲ有スル債權者ハ別除權ヲ主張スルト同時ニ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ルノ法則ヲ否認シタリ(破産法案第七條但書第二三條)又破産者カ他人ノ債務ノ爲メニ破産財團ニ屬スル特定ノ財產上ニ物上擔保權ヲ設定シタル場合ニ於テハ該擔保權ヲ有スル債權者ハ別除權者タルト同時ニ破産債權者タルコトナシ隨テ斯ル權利者ハ全然破産手續ノ外ニ立ツモノト知ルヘシ是ヲ以テ(1)通常ノ債務者ノ破産ニ在リテハ債務者ノ總財產上ニ満足ヲ受クルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル總債權者カ破産債權者ト爲ル營業者ノ破産ニ在リテハ匿名組合員ハ其出資中營業

上ノ損失ニ因リテ消耗セラレタリシ部分ニ付キ破産債權者ト爲ル蓋シ匿名組合員ハ營業者ニ對シ營業上ノ損得ニ因リテ増減セラルコトアルヘキ債權ヲ有スルモノニシテ組合財産ニ對シ持分ヲ有スルモノニ非サレハナリ(商法第二九七條第二九八條第三〇三條獨逸商法第三三七條第三四一條第三四九條而シテ匿名組合員ノ破産債權額ハ營業者ノ破産宣告ノ當時ニ於ケル財産の狀態ヲ標準トシ管財人ト匿名組合員トノ間ニ於テ破産手續ニ依ラスシテ之ヲ算定ス(獨逸破産法第一六條商法第一一條民法第六八五條故ニ組合ノ營業カ破産手續繼續中管財人ノ營業續行ニ依リ利益ヲ生スルニ至リタルモ之カ爲メニ匿名組合員ヲ利スルコトナシ然レトモ匿名組合員カ斯ル算定ヲ待タスシテ自己ノ見込ヲ以テ其損失ヲ算定シ之ヲ控除シタル出資ノ殘額ヲ破産債權トシテ届出ヲタルトキハ管財人及ヒ各破産債權者ハ之ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得又匿名組合員ハ破産法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ債權確定ノ訴ヲ提起スルコトヲ得獨逸ノ「コーレル」氏ハ以上ノ見解ニ反シテ匿名組合員ノ債權額ヲ算定スルノ標準タル組合營業ノ狀態ハ該營業カ管財人ノ營業ノ續行ニ因リ利益ヲ生ス

ルニ至ルコトアルヲ以テ匿名組合員ノ破産債權ハ破産宣告ノ當時ニ於テハ條件附債權ト謂フヘタ又組合營業カ管財人ノ營業ノ續行ニ依リ終了シタル場合ニ於テハ匿名組合員ノ債權額ノ確定ハ破産手續ニ依ルヘキ旨ヲ主張シタリト雖モ這ハ「イェゲル」シタウブ氏ノ贊成セザル所ナリ)法人ノ債務ニ付キ其債權者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ旨殊ニ合資會社ノ有限責任社員商法第一〇四條)ノ破産ニ在リテハ法人ノ債權者ハ有限責任ヲ負フ者カ未タ法人ニ給付セザル出資額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ蓋シ有限責任ヲ負フ者ハ唯其未済ノ出資額ノミニ付キ法人ノ債權者ニ對シ責任ヲ負フモノナレハナリ故ニ法人ノ數多ノ債權者ノ届出タル債權總額カ未済ノ出資額ヲ超越シタル場合ニ於テハ各債權者其金額ノ割合ニ應ジテ減少シ其減少額ニ對シ配當ヲ爲スコトト爲ル(獨逸商法第一七一條破産手續ニ於テ斟酌スヘキ破産債權ノ額ニ付テハ債權調査會ニ於テ之ヲ確定ス無限ノ責任ヲ負フ者殊ニ無限責任社員商法第六三條第一〇條第二三五條)ノ破産ニ在リテハ法人ノ債權者ハ其債權ノ全額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ破産法案第一七條瑞西破産法第二一八條第

二項蓋シ法人ノ債權者ハ法人ノ債務ニ付キ其債務者ノ爲メニ無限ノ責任ヲ負フ者ニ對シ財産上ノ請求權ヲ有スル者ナルヲ以テ之ヲ無限責任ヲ負フ者ノ他ノ債權者ト區別スルノ理ナケレハナリ故ニ無限責任ヲ負フ者ノ破産ニ於テ法人ノ債權者カ配當ヲ受ケタルトキハ破産者タル無限責任ヲ負フ者カ配當額ノ割合ニ應シ法人ノ債權者ニ代位ス(民法第五〇〇條無限責任社員ハ保證人ト其法律上ノ地位ヲ同シクス)(2)法人殊ニ會社ノ破産ニ在リテハ社員及ヒ株主カ法人ニ對シ貸借其他ノ原因ニ基キ有スル債權ハ他ノ債權ト同シク破産債權ナリト雖モ社員及ヒ株主カ法人ニ對シテ有スル持分權ハ破産債權ニ非ス蓋シ社員及ヒ株主ハ其持分ニ應シテ法人ノ解散ニ際シ其債務ヲ完済シタル殘餘財産ニ付キ配當ヲ受クルニ止マルヲ以テ社員及ヒ株主ノ持分權ハ法人ノ借方ニ屬セス隨テ之ヲ法人ニ對スル債權ト謂フコト能ハサレハナリ然レトモ株式會社ノ破産宣告前ニ於テ適法ニ株主ノ受クヘキ利益ノ配當額ニシテ未タ支拂ハレサルモノハ破産債權タルコトヲ妨ケス何トナレハ斯ル配當額ハ持分ヲ増加スルモノニ非サルヲ以テ之ニ持分ニ伴フ危險ノ存スヘキ理ナケレハナリ(3)單純承

認ヲ爲シタル相續人ノ破産ニ在リテハ相續債權者及ヒ受遺者ハ財産ノ分離アリタルトキト雖モ其債權ノ全額ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ蓋シ相續人ハ單純承認ノ效果トシテ相續債權者及ヒ受遺者ニ對シ總財産相續財産及ヒ固有財産ヲ以テ辨済ヲ爲スヘキ義務ヲ負ヒ又相續人ノ債權者ノ爲メニシタル財産ノ分離ハ相續人ノ固有財産ニ付キ相續人ノ債權者カ相續債權者及ヒ受遺者ニ先チテ辨済ヲ受クルノ原因ト爲リ相續債權者及ヒ受遺者ノ爲メニシタル財産ノ分離ハ相續財産ニ付キ相續債權者及ヒ受遺者カ相續人ノ債權者ニ先チテ辨済ヲ受クルノ原因ト爲ルニ過キサレハナリ限定承認ヲ爲シタル相續人ノ破産ニ在リテハ相續債權者及ヒ受遺者ハ破産債權者ト爲ラス何トナレハ相續債權者及ヒ受遺者ハ唯相續財産ノミニ付キ満足ヲ受クルニ止マレハナリ(破産法案第一九條第二一條民法第一〇二五條第一〇四四條第一〇四八條第一〇五〇條(4)相續財産ノ破産ニ在リテハ破産法案及ヒ獨逸破産法ニ於テ相續財産ニ對シ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得ルハ疑ナシト雖モ現行破産法及ヒ佛法系ノ破産法ニ於テハ相續財産ニ對シ破産ノ宣告ヲ爲スコトナシ蓋シ相續財産ハ商

人ニ非サルヲ以テナリ相續債權者及ヒ受遺者カ破産債權者ト爲ル蓋シ相續債權ハ被相續人カ負ヒタル債務又遺贈ニ基ク債權ハ相續人カ其資格ニ於テ負ヒタル債務ニシテ孰レモ相續財産ヲ以テ之カ辨濟ヲ爲スヘキモノナレハナリ被相續人ニ對シ債權ヲ有スル相續人ハ相續ノ結果トシテ該債權カ消滅セザルトキニ限り破産債權者ト爲ル故ニ相續人ハ相續財産ニ對スル破産ノ宣告前ニ未タ何等ノ承認ヲ爲サス若クハ限定承認ヲ爲シタル場合ニ於テ破産債權者ト爲ルト雖モ(民法第一〇二七條)相續財産ニ對スル破産ノ宣告前又ハ其後ニ於テ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産債權者ト爲ラス何トナレハ斯ル場合ニ於テハ相續人ノ權利ハ混同ニ依リ消滅セルヲ以テナリ又被相續人ノ債務消滅ノ爲メニ出捐ヲ爲シタル相續人ハ其出捐カ相續財産ニ對スル破産ノ宣告前ナルト否トニ拘ハラズ單純承認ヲ爲サザルトキニ限り該出捐ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フ是レ蓋シ相續人ヲシテ其出捐ニ因リ辨濟ヲ受ケタル債權者ニ法律上當然代位スルコトヲ得セシメ以テ該債權者ト同順位ニ又ハ之ヨリ劣等ノ順位ニ在ル他ノ債權者カ相續財産ニ對スル破産ニ於テ受クヘカリシ金額

ニ付キ相續人ノ損害ニ於テ不當ニ利得スルニ至ルノ結果ヲ避クルノ法意ニ外ナラス然レトモ被相續人ノ債務消滅ノ爲メニ出捐ヲ爲シタル相續人カ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ其承認ノ破産宣告前タルト否トニ拘ハラズ該出捐ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行フコトヲ得ス何トナレハ單純承認ヲ爲シタル場合ニ於テハ其相續人ハ無限ニ被相續人ノ權利義務ヲ承繼スルモノナルヲ以テ被相續人ノ債務消滅ノ爲メニ爲シタル出捐ニ付キ破産債權者トシテ其權利ヲ行ハシムルモ徒ニ手續ヲ煩雜ナラシムルニ止マリ何等ノ實益ナケレハナリ(破産法案第二三條)民法第九六七條第九三條第一〇二一條第一〇二三條第一〇二四條第一〇二七條第一〇二八條第一〇四四條第一〇五〇條)獨逸破産法第二二五條獨逸民法第一九七八條第一九七九條

(D) 破産宣告前ニ發生シタル原因ニ由ル權利 破産債權ハ破産宣告前ニ發生シタル原因ニ由ル權利ナルコト即チ破産宣告後ニ成立シタル權利ニ非サル權利ナルコトヲ要ス權利ハ實體法即チ公私法ニ於テ定メタル成立要件カ完備スルニ至リタルトキニ於テ成立ス故ニ權利ノ成立ニ必要ナル要件カ破産宣告後

ニ完備スルニ至リタル場合ニ於テハ縱令權利ヲ發生セシムル法律關係カ破産宣告前ニ現存スルトキト雖モ之ニ因リテ成立シタル權利ヲ破産債權ト爲スコトヲ得ス是レ蓋シ債務者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ爾後破産財團ニ屬スル財産ニ付キ破産債權者ニ對シ有效ナル處分ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ破産宣告後ニ成立シタル權利ハ破産者ノ法律行為ニ因ルモノナルト不法行為ニ因ルモノナルトノ區別ヲ問ハス之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得サルノ當然ナル論結ニ過キサルヘシ是ヲ以テ(1)期限附權利即チ破産宣告ノ當時ニ於テ未タ期限ノ到來セサル權利ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得ルヤ言フ埃ヲ破産債權トシテ期限ヲ附セサル權利ト同シク主張スルコトヲ得ルヤ言フ埃タス(民法第一三五條第二項)獨逸民法第一六三條第一五八條始期附權利即チ債務者カ破産宣告ヲ受ケタル當時ニ於テ未タ履行期ノ到來セサル權利ハ之ヲ破産債權トシテ主張スルコトヲ得蓋シ始期ハ單ニ權利ノ履行ヲ延引セシムル

モノニシテ權利ノ成立ヲ妨クルモノニ非ス隨テ破産宣告ノ當時未タ履行期ノ到來セサル權利ハ破産宣告ノ當時ニ於テ既ニ成立シタルモノト謂ハサルヲ得テレハナリ(民法第一三五條第一項)獨逸民法第一六三條加之履行期ノ未タ到來セサル債權ハ債務者ノ破産宣告ニ因リテ法律上當然履行期ニ至リタルモノト爲ル(民法第一三七條第一號)破産法案第九條商法第九八八條第一項)獨逸破産法第六五條第一項)佛國商法第四四條第一項)奧太利破産法第一四條)英國破産法補則債權調査法第二一條等其理由ハ總破産債權者間ニ於テ平等ノ關係ヲ嚴格ニ維持シ履行期ニ達セサル債權者ヲ害シテ履行期ニ達セル債權者ノ支拂ヲ受タルノ不公平ナル結果ヲ除去シ履行期ニ達セサル債權者モ亦破産手續ニ從ヒテ満足ヲ受タルコトヲ得セシムルノ法意及ヒ成立ノ確實ナル期限附權利ニ對スル配當額ヲ履行期ノ到來マテ供託スルカ如キハ徒ニ破産手續ノ遲延ヲ來シ期限附債權者及ヒ其他ノ破産債權者ノ利益ニ反スルヲ以テ成ルヘク迅速ニ破産手續ヲ終結セシムルノ法意ニ存シ破産宣告ヲ受ケタル債務者ハ支拂上ノ信用ヲ喪失スルカ故ニ該信用ニ根據セル期限ノ利益ヲ喪失スルモノナリト云フ

カ如キ趣意ニ存セス此ノ如ク未タ履行期ニ達セサル權利ハ之ヲ破産手續ニ於テ主張スルコトヲ得ルト雖モ之カ爲メ平等保護ノ法則ニ反シ該權利ヲ有スル者ニ特別ノ利益ヲ得セシムルコトヲ得ス故ニ期限附權利ニシテ利息ヲ生スルモノハ債務者ノ破産宣告ノ當時ニ於ケル元利合額即チ現存價額ニ付キ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ルヤ當然ナリト雖モ確定ノ期限附權利ニシテ利息ヲ生セサルモノハ債務者ノ破産宣告ノ當時(利息ハ破産財團ニ對シ破産宣告ノ日ヨリ發生ヲ止ムルヲ以テ)ヨリ履行期ニ至ルマテノ法定利息現存價額ト券面額トノ差額ヲ割引シタル金額即チ現存價額ニ非サレハ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ス蓋シ履行期ニ達シタル無利息ノ權利ハ其額ヲ同シウスル無利息ノ權利ニシテ未タ履行期ニ達セサルモノト同價額ニ非サレハナリ是ヲ以テ獨逸破産法第六十五條第二項、瑞西破産法第二百八條、西班牙商法第八百八十三條、伊太利商法第七百一條、第七百六十八條、白耳義商法第四百五十條等ハ何レモ破産宣告ノ時ヨリ履行期マテノ法定利息ヲ割引スヘキ旨ノ法則ヲ是認シタリ殊ニ獨逸破産法ハ利息割引ノ方法ニ關シ我破産法案第九條ト同シク

數理上最モ正確ナル隨テ又法律上最モ正確ナル(ホフマン)式ヲ採用シ債務者ノ破産宣告後ニ到來スヘキ期限ノ存スル無利息債權ノ破産債權額ハ破産宣告ノ時ヨリ期限ニ至ルマテノ法定利息ヲ加ヘタル或金額ニシテ該債權ノ券面額ニ相當スルモノナルコトヲ明示シタリ故ニ未知ノ破産債權額タル或金額ヲ示トシNヲ券面額トシAヲ年數トシ利息ヲ百分ノ五トセハ前示ノ破産債權額ハ $\frac{5Ax}{100} = N$ 故ニ $x = \frac{100N}{100+5A}$ ノ算式ニ依リ之ヲ容易ニ算出スルコトヲ得日數ニ應シテ算出スルニハトモ日數トシ $x + \frac{5Ax}{100 \times 365} = N$ 故ニ $x = \frac{36500N}{36500+5A}$ ノ算式ニ依ル然レトモ我現行破産法ハ佛國商法ト同シク債務者ノ破産宣告後ニ到來スヘキ履行期ノ存スル無利息ノ債權ニ付キ斯ル利息割引ノ法則ヲ認メザリシ是レ蓋シ商事ニ於テハ通常債權ニ付キ長キ期限ヲ附スルコトナキヲ以テ法定利息ノ割引ヲ是認スルモ爲メニ著シキ利益ナク却テ計算上ノ不便ヲ來シ徒ニ破産手續ノ進行ヲ遲延セシムルノ虞アルノミナラス履行前ニ於ケル辨濟ハ必スシモ債權者ノ利益ニ非ストノ理由ニ歸著スルモノナルヘシト雖モ遺ハ前述セシ債權者平等保護ノ法則ニ反スル失當ノ立法タルヤ言ヲ換タサルナリ是レ破

産法案ニ於テ現行法ヲ修正シタル所以ナリ未確定ノ期限附權利ニシテ利息ヲ生セサルモノニ關シテハ債權者自ラ破産宣告ノ當時ヲ標準トシ控除スヘキ金額ヲ評定シ其評定額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ破産債權額トス(破産法案第一二條)獨逸破産法第六九條又定期ノ給付ヲ目的トスル權利ニシテ民法ノ規定ニ從ヒ破産宣告ノ當時ニ於テ既ニ權利トシテ成立シタルモノニ關シテハ破産宣告後ニ於テ辨濟スヘキ定期ノ給付ヲモ破産債權トシテ主張スルコトヲ得破産宣告後ニ於テ辨濟スヘキ定期ノ給付ノ請求權カ破産宣告後尙ホ特定ノ要件ノ具備若クハ時間ノ經過ニ因リテ新ニ成立スルモノナルトキハ縱令同一ノ法律關係ニ基因スト雖モ破産宣告後ニ於テ辨濟スヘキ定期ノ給付ヲ破産債權ニ包含セシムルコトヲ得ス故ニ貸金ノ支拂保險料ノ支拂若クハ利息ノ支拂ヲ目的トスル權利等ハ破産宣告後ニ辨濟セラルヘキ給付ニ關シ破産債權ト爲ラス蓋シ斯ル債權ハ破産者若クハ管財人ニ對シテ爲シタル給付ニ對スル賠償トシテ新ニ成立シタルモノ即チ破産宣告後ニ於ケル貸金及ヒ利息ノ支拂ヲ目的トスル債權ハ物件若クハ元金ノ使用ニ對スル賠償トシテ又破産宣告後ニ於ケル保

險料支拂ヲ目的トスル債權ハ危險負擔ニ對スル賠償トシテ破産宣告後新ニ成立スルモノナルヲ以テ貸金人保險人及ヒ貸主カ其義務タル給付ヲ爲ス以前ニ發生スルコトナケレハナリ換言スレハ破産宣告ノ當時ニ於テハ唯將來ニ於テ成立スヘキ請求權タルニ止マレハナリ又夫婦親子等ノ如キ親族關係ニ基ク法定扶養請求權民法第七四七條第七九〇條ハ破産宣告後ニ於テ辨濟セラルヘキ給付ニ付キ破産債權トシテ之ヲ主張スルコトヲ得ス何トナレハ斯ル請求權ハ各定期ニ於ケル必要ニ因リ新ニ成立スルモノナルヲ以テ唯破産宣告ノ當時マデニ發生シタル給付ヲ目的トスル請求權ノミヲ破産債權ト謂フヲ得ヘケレハナリ權利者ノ必要ノ存否及ヒ義務者ノ實力ノ有無ヲ條件トシテ契約又ハ遺贈ニ因リテ成立シタル養料請求權亦然リ何トナレハ斯ル請求權ハ法律上法定養料請求權ト同一地位ニ在レハナリ之ニ反シテ金額及ヒ期間ノ特定セル定期金債權終身定期金ノ債權並ニ權利者ノ必要ノ存否及ヒ義務者ノ實力ノ有無ニ關係ナク契約又ハ遺贈ニ因リテ成立シタル養料請求權斯ル權利ノ發生原因力契約ナルトキハ該契約カ破産宣告前ニ成立セルコトヲ要シ又遺贈ナルトキハ破

破宣告ヲ受ケタル相續人カ破産宣告前ニ負擔附相續ヲ承認セルコトヲ要スル
ヤ言フ埃タス(等)ハ破産宣告後ニ辨濟セラルヘキ給付ニ付テモ破産債權トシテ
之ヲ主張スルコトヲ得何トナレハ斯ル權利ハ當初ヨリ單一的ニ成立セル請求
權ニシテ唯爾後定期ニ辨濟セラルヘキ給付ニ關シ期限附若クハ條件附タルニ
過キサレハナリ換言スレハ斯ル權利ハ根本ノ權利ニシテ又破産宣告後ニ辨濟
セラルヘキ給付ヲ目的トスル請求權ハ斯ル權利ノ拋棄ニ過キサレハナリ而シ
テ五年間毎年金百圓ヲ支拂フト云フカ如キ金額及ヒ期間ノ確定セル定期金債
權ニ關スル破産宣告後ニ受タヘキ給付ニ付キ何等ノ割引ヲ爲スコトナク債權
額ヲ算定スルハ該債權者ニ特別ノ利器ヲ與フルモノト爲ルヤ前述ノ如シ故ニ
獨逸破産法及ヒ我破産法案ニ於テハ法律上最モ正當ナル算定方法ヲ規定シタ
リ獨逸破産法案第七〇條第六五條第二項破産法案第一〇條此方法ニ依レハ破産
宣告後ニ辨濟セラルヘキ各定期ノ給付額ヨリ各給付期マデノ法定利息ノ割引
ヲ爲シタルモノノ總額ヲ以テ破産債權額トシ該總額カ各定期ノ給付額ニ相當
スル法定利息ヲ生スヘキ元本額ヨリ多キトキハ此元本額ヲ以テ破産債權額ト

報 載

○手形ノ呈示期間ハ爲替手形及ヒ約束手形ニ於テ定メ滿期日ヲ記載スルマ
トヲ必要トシ(商法第四四五條第四五〇條第四五一條第五二五條第五二九條之
ニ據リテ)時効ノ起算點ヲ知リ(第四四三條提供シタル擔保又ハ供託ノ效力ハ存
續期間ヲ知リ(第四七九條第五號第四八一條第三號第五二九條手形所持人ハ債
權請求權保全ノ行爲ヲ爲スヘキ期間ノ起算點ト爲リ)第四八七條第五〇八條第
五二九條(參加支拂人カ支拂ノ義務ヲ免ルル期間ノ起算起ト爲ル)第五〇五條コ
トハ明文ノ示ス所ナリ而シテ引受人若クハ支拂人ハ滿期日經過後ニ於テモ仍
ホ支拂ヲ爲スコトヲ要スルカ商法第四百七十條ニ於テ支拂人ハ爲替手形ノ引受
ニ因リ滿期日ニ於テ其引受ケタル金額ヲ支拂ヲ義務ヲ負フト規定セリ此規定
ニ依レハ滿期日以外ノ日ニ於テハ引受ケタル金額ト雖モ之ヲ支拂フコトヲ要
セサルカ如クニモ見エサルニ非ス然ルニ大審院ハ反對ニ論決シテ曰ク支拂ヲ
求ムル爲メニ手形ヲ呈示スルハ滿期日ニ於テスルヲ以テ通例トスルコトハ勿

論ナレトモ假令満期日ニ之ヲ呈示セサルモ所持人カ償還請求ノ權利ヲ喪失スヘキ規定商法中ニ存セサルノミナラス同法第四百八十七條ノ規定ニ依レハ拒絕證書ノ作成ハ満期日又ハ其後二日內ニ於テスルコトヲ得ヘシ而シテ手形ノ所持人カ満期日ニ手形ヲ支拂人ニ呈示スルモ支拂ナキニ因リ其後二日ノ期間ニ於テ拒絕證書ヲ作成スルニ際シ若シ支拂人カ支拂ヲ爲サント欲スルトキハ所持人ハ之ヲ拒ムコトヲ得サルハ固ヨリ論ヲ待タス故ニ其反面ニ於テ所持人ハ拒絕證書作成ノ期間内ハ適法ニ手形ノ呈示ヲ爲スコトヲ得ヘキモノト論斷セサルヲ得スト（大審院明治三十六年三月四十九號約束手形金請求案）

○理由ノ申立ナキ抗告 裁判所ノ決定ニ不服ナリトシテ抗告ヲ爲シ其決定全部ヲ廢棄セラレンコトヲ申立テ而シテ其廢棄スヘキ理由ヲ示サザリシ場合ニ於テハ抗告裁判所ハ如何ナル決定ヲ爲スヘキカ大審院ハ之ヲ不適法トシテ棄却スヘキモノトノ決定ヲ與ヘ其理由トシテ抗告人ハ明治三十六年七月十六日東京控訴院カ本件ニ付與ヘタル決定不當ナルニ付其全部廢棄セラレ度其理由ハ追伸書ヲ以テ別ニ申立ル旨記載シタル抗告狀ヲ明治三十六年八月一日附

ヲ以テ本院ニ提出シタルモ爾來抗告ノ理由ヲ申立ル所ナキヲ以テ本件抗告ハ不適法トシテ棄却スヘキモノトスト說明セリ（大審院明治三十六年三月二十六號銀行條例違反事件ノ決定）

○假處分ノ性質 假處分民事訴訟法第七五條第七六〇條ノ性質換言スレハ之ニ依リテ何人カ其拘束ヲ受クルカニ付キ大審院ハ說明シテ曰ク凡ソ假處分ナルモノハ訴訟ノ完結ニ至ルマテ其係争物ニ付キ權利ヲ有スル者ノ處分即チ權利ノ行使ヲ禁スルヲ必要トシ又ハ係争ノ權利關係ニ付假ノ地位ヲ定ムルヲ必要トスルカ如キ場合ニ於テ之ヲ爲シ得ヘキモノナレハ假差押ト異ナリ原告ノ地位ニ立ツ者ナルト被告ノ地位ニ立ツ者ナルトヲ問ハス之カ申請ヲ爲シ得ヘキモノタリ故ニ本件ニシテ上告人所論ノ如ク勝藏ト又吉トノ權利關係ニ付其係争物ノ權利ノ行使ヲ禁スルノ必要アリテ又吉ヨリ其申請ヲ爲シ之カ命令ヲ受ケタルモノトスレハ獨リ勝藏ノ權利行使ノミヲ停止シ又吉ニ於テハ之ヲ自由ニ處分シ得ヘキモノトスルノ理ナシ要スルニ假處分ハ假差押ト異ナリ其性質上該處分ニ係ル係争物ニ付キ雙方權利ノ行使ヲ停止スヘキヲ常トスト

(大審院明治三十六年(十四)第四百十號許書行為廢罷海產乾物所有) 町村制施行前ノ町村ノ人格 町村制施行以前ニ於ケル町村ノ人格ヲ有スルヤ否ヤニ付キ大審院ハ說明シテ曰ク町村制施行以前ニ在リテ町村ヲ法人ナリト明言シタル法文ナシト雖モ町村ハ實際權利義務ノ主體ト爲ルコトヲ許サレ法人ノ實ヲ備ヘタルモノニシテ從來本院ニ於テモ之ヲ法人ト認ムル所ナリ而シテ維新前後各村ニ於ケル庄屋名主等ハ法律行為ヲ爲スニ當リ獨リ村ノ代表者トシテ爲シタルカ將タ村民ヲ代表シタルカハ行為其物ノ性質ニ依リテ區別セラルルモノトスト(大審院明治三十六年(十四)第三百九十二號新聞用本差止) 〇高等研究科授業開始 本大學高等研究科ハ本月四日より開始セリ其擔任講師ハ憲法清水學士民法鈴木學士富井博士田代學士板倉學士清水學士梅博士掛下學士商法富谷博士志田博士田坂學士粟津學士内田學士岡野博士刑法岡田博士古賀學士行政法松浦學士國際公法高橋博士秋山學士寺尾博士國際私法山口講師(民事訴訟法岩田學士齋藤學士富谷博士刑事訴訟法豐島學士鶴見學士破産法松岡學士經濟學金井博士羅馬法田中博士法理學穗積博士等)ナリ

● 學生募集

○大學 豫科

第二期生缺員アリ臨時入學ヲ許ス

○專 門 部

正科生、別科生共缺員アリ臨時入學ヲ許ス

○高等 研究科

本月四日より授業ヲ開始セリ入學志願者ハ此際申出ツヘシ

○聽 講 生

隨時入學ヲ許ス

○特別試驗各及ヒ編入試驗三年級

十一月十一日より施行ス、志願者ハ前

日マデニ申出ツヘシ

○校 外 生

三十七年度講義錄ハ之ヲ三學年ニ分チ各學年共十月ヨリ毎月三回發行滿一箇年ヲ以テ完結ス月謝金ハ各學年共金五十錢但官公衛在職者(證明書ヲ要ス)及ヒ校友ノ紹介アル者ハ金四十五錢トス總テ入學金ヲ要セス、入學志願者ハ至急申込ムヘシ

十一月

司法部指定
文部省認定

私立 法政大學

正誤

科目頁行誤正

民事訴訟法 自第三編 至第五編	四	一二	第二百六十二條	第二百六十三條
五四	一四	第三八九條	第三九八條	
五	五	第二百六十五條	第二百五十二條	
六	八	第二百一十一條	第二百一十二條	
一四	九	本問	本問	

明治三十六年十一月七日印刷
明治三十六年十一月八日發行
(定價金貳拾錢)

編輯者兼
發行者
東京市牛込區牛込北町三番地
萩原敬之

印刷者
東京市牛込區矢來町三番地
小宮山信好

印刷所
東京市芝區四ノ久保明舟町十一番地
金子活版所

發行所
司法省
指定
法政大學
東京市總町區富士見町六丁目十六番地

(電話番町百七十四番)

(明治三十六年十一月十二日第三種郵便物認可)
每月九回 一日五日八日十一日十五日十八日廿一日廿五日廿八日發行